活動報告

日本語研修コース

深見兼孝

修了者

第 56 期生名簿（2013 年 4 月～2013 年 9 月）［6 名］

氏名	呼び名	国籍	専攻	大学
Novi Syaftika	ノビ	インドネシア	機械物理工学	広島大学
Van Piseth	ピセッ	カンボジア	社会基盤環境工学	広島大学
Try Ky	キー	カンボジア	医歯薬保健学	広島大学
Faluabaru Merry Sailonga	メリー	ソロモン諸島	環境循環系制御学	広島大学
Sanchez Silva Luis Gustavo	グスタボ	ペルー	生物資源科学	広島大学
Sabri Mo'taz Adnan Mustafa	モタズ	パレスチナ	情報工学	広島大学

第 57 期生名簿（2013 年 10 月～2014 年 3 月）［18 名］

氏名	呼び名	国籍	専攻	大学
Aaron Claude Sponseller	アーロン	米国	外国語教育学	広島大学
Kolar Boris	ボリス	スロバキア	環境工学	広島大学
Moresta Virgorini Langgar	モレスタ	インドネシア	算数科教育	広島大学
Gilig Pradhana	ギリグ	インドネシア	英語科教育	広島大学
Wisnu Adi Saputra	アディ	インドネシア	日本語教育	広島大学
Rittkaew Jaray	ジャレイ	タイ	知的障害教育	広島大学
Md Abu Taher	タヘル	バングラデシュ	幼児教育学	広島大学
Laza Manni Carino	マニ	フィリピン	化学教育	広島大学
Hau Khan Mang	ハウカンマン	ミャンマー	英語教育	広島大学
Xaparkdy Anousone	アノウソネ	ラオス	英語教育	広島大学
Rossy Valeska Berrocal Barboza	ヴァレスカ	コスタリカ	特別教育	広島大学
Adriana Maria Henriquez Millon	アドリアナ	コスタリカ	比較国際教育学	広島大学
Siti Hazel Sophia Binti Ziaudin Ahamed	ハゼル	マレーシア	理科教育	広島大学
Srinivasan Kasthuri	スリニバサン	インド	情報工学	広島大学
Thun Leewisuttikul	タン	タイ	機械工学	広島大学
Karthik Raja Pitchiya	ラジャ	インド	機械工学	広島大学
Jadsupa Porananont	ジェスパ	タイ	輸送・環境システム	広島大学
Pongsupat Sukaram	パット	タイ	輸送・環境システム	広島大学

講師一覧

第 56 期（2013 年 4 月～2013 年 9 月）

専任　　中川正弘　中矢礼美　深見兼孝

非常勤　伊ヶ崎泰枝　今石正人　浮田三郎　後藤美知子　佐藤道雄　松村一徳

第 57 期（2013 年 10 月～2014 年 3 月）

専任　　中川正弘　中矢礼美　深見兼孝

非常勤　伊ヶ崎泰枝　今石正人　浮田三郎　後藤美知子　佐藤道雄　松村一徳

第 56 期(2013 年 4 月～2013 年 9 月)予定表

	行事／試験等	見学	備考
4/5	4/5（金）11:00 オリエンテーション(K308)		
4/8 - 4/12	4/8（月）13:30 開講式（学士会館レセプションホール）		4/12（金） 16:20　全学新留学生オリエンテーション（教育 K201）
4/15 - 4/19			
4/22 - 4/26		4/26（金） 広島市	4/26（金） 17:00 ホストファミリー対面式
4/29 - 5/3			4/29（月）昭和の日（祝日） 5/3（金）憲法記念日（祝日） 5/4（土）みどりの日（祝日）
5/6 - 5/10			5/6（月）こどもの日振替休日
5/13 - 5/17			
5/20 - 5/24		5/24（金） 宮島	
5/27 - ５/31			
6/3 - 6/7	6/6（木）中間テスト		
6/10 - 6/14			
6/17 - 6/21			
6/24 - 6/28			
7/1 - 7/5			
7/8 - 7/12			
7/15 - 7/19		7/19（金） マツダ	7/15（月）海の日（祝日）
7/22 - 7/26			
7/29 - 8/1	8/1（木）期末テスト		
8/2 - 9/2	夏休み		
9/3 - 9/6	9/3（火）～　9/6（金）特別講義		
9/9	9/9（月）研修成果発表会・修了式		

第 57 期(2013 年 10 月～2014 年 3 月)予定表

	行事／試験等	見学（総合演習）	備考
10/7 - 10/11	10/7（月）11:00 オリエンテーション(K308) 10/8（火）13:30 開講式（学士会館レセプションホール）		10/11 全学新留学生オリエンテーション(K104)
10/14 - 10/18			10/14（月）体育の日（祝日） 10/16（水）8:45-10:15 情報セキュリティ・コンプライアンス講座（情報メディア教育研究センター）
10/21 - 10/25		10/25（金） 広島市	10/22（火）9:00 健康診断（女） 10/23（水）9:00 健康診断（男） 10/25（金） 17:30 ホストファミリー対面式
10/28 - 11/1			
11/4 - 11/8			11/3（日）文化の日（祝日）(11/4（月）振替休日)
11/11 - 11/15			
11/18 - 11/22			11/23（金）勤労感謝の日（祝日）
11/25 - 11/29		11/29（金） 宮島	
12/2 - 12/6	12/5（木）中間テスト		
12/9 - 12/13			
12/16 - 12/20			
12/23 - 1/7	冬休み		12/23（月）天皇誕生日（祝日） 1/1（水）元日（祝日）
1/8 - 1/10			
1/13 - 1/17			1/13（月）成人の日（祝日）
1/20 - 1/24		1/24（金） マツダ	
1/27 - 1/31			
2/3 - 2/7			
2/10 - 2/14			2/11（火）建国記念の日（祝日）
2/17 - 2/21	2/20（木）期末テスト 2/21（金）特別講義		
2/24 - 2/28	2/24（月）～2/27（木）特別講義 2/28（金）修了式・研修成果発表会		

日本語･日本事情
（2013年4月 ～2014年3月）

田村泰男

１．授業科目一覧
・東広島キャンパス

授業科目	開設単位数	学期別週授業時数 前期	学期別週授業時数 後期	備考
総合日本語初級ＩＡ	１・１	2	2	広島大学外国人留学生のための授業である。
総合日本語初級ＩＢ	１・１	2	2	
総合日本語初級ＩＣ	１・１	2	2	
総合日本語初級ＩＤ	１・１	2	2	
総合日本語初級ＩＥ	１・１	2	2	
総合日本語初級ⅡＡ	１・１	2	2	
総合日本語初級ⅡＢ	１・１	2	2	
総合日本語初級ⅡＣ	１・１	2	2	
総合日本語初級ⅡＤ	１・１	2	2	
総合日本語中級ＩＡ	1	2		
総合日本語中級ＩＢ	1	2		
総合日本語中級ＩＣ	1	2		
総合日本語中級ＩＤ	1		2	
総合日本語中級ＩＥ	1		2	
総合日本語中級ＩＦ	1		2	
総合日本語中級ⅡＡ	1	2		
総合日本語中級ⅡＢ	1	2		
総合日本語中級ⅡＣ	1	2		
総合日本語中級ⅡＤ	1		2	

総合日本語中級ⅡＥ	1		2	
総合日本語中級ⅡＦ	1		2	
日本の教育と文化Ａ	1	2		
日本の教育と文化Ｂ	1		2	
日本語聴解特別演習Ａ	1	2		
日本語聴解特別演習Ｂ	1		2	
日本語分析特別演習Ａ	1	2		
日本語分析特別演習Ｂ	1		2	
日本語表現特別演習Ａ	1	2		
日本語表現特別演習Ｂ	1		2	
日本語語彙特別演習Ａ	1	2		
日本語語彙特別演習Ｂ	1		2	
映像日本語特別演習Ａ	1	2		
映像日本語特別演習Ｂ	1		2	
論文作成法Ａ	1	2		
論文作成法Ｂ	1		2	
日本の社会・文化Ａ	1	2		
日本の社会・文化Ｂ	1		2	
日本語･日本文化特別研究ⅠＡ	4		4	
日本語･日本文化特別研究ⅠＢ	4		4	
日本語･日本文化特別研究ⅠＣ	4		4	
日本語･日本文化特別研究ⅡＡ	4	4		
日本語･日本文化特別研究ⅡＢ	4	4		
日本語･日本文化特別研究ⅡＣ	4	4		

・霞キャンパス

授　業　科　目	開　設 単位数	学期別週授業時数		備　　考
		前　期	後　期	
総合日本語初級ＩＡ	１・１	２	２	広島大学外国人留学生のための授業である。
総合日本語初級ＩＢ	１・１	２	２	
総合日本語初級ⅡＡ	１・１	２	２	

２．授業内容

（東広島キャンパス）

・レベル１

授業科目	総合日本語初級ＩＡ・ＩＢ・ＩＣ・ＩＤ・ＩＥ
担当教官	石原淳也・深見兼孝・堀田泰司・山中康子・渡辺久美
目　　標	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。
内　　容	第1週－第8週 ひらがな、カタカナと日本語の発音、あいさつ、数詞、名詞文、指示詞、時間表現、自動詞文、移動の動詞、他動詞文、斜格助詞、形容詞、目的語+が、存在表現、数量詞、比較、中間試験 第9週－第15週 要求・希望、テ形、許可・禁止、進行、連続した行為、ナイ形、禁止、義務、第十八課　辞書形、第十九課　普通形過去、引用、関係節、時を表す従属節、授受動詞、条件節、期末試験
テキスト	「みんなの日本語初級Ｉ　本冊」（スリーエーネットワーク）
成績評価の方法	出席・試験・宿題

・レベル２

授業科目	総合日本語初級ⅡＡ・ⅡＢ・ⅡＣ・ⅡＤ
担当教官	田村泰男・中川正弘・堀田泰司・下村真理子
目　　標	初級後半レベルの基礎的な語彙・文型・表現を学習し、併せて種々の場面に応じた実用的な日本語表現能力を習得させる。
内　　容	第1週－第5週 依頼表現、可能表現、継続・習慣の表現、理由の表現、意志・予定の表現、完了表現、自動詞／他動詞、推量表現、忠告の表現、命令・禁止表現、テスト(1) 第6週－第10週 時間表現、付帯状況の表現、条件表現、目的・目標の表現、状態変化の表現、受身表現、形式名詞、理由・原因の表現、疑問詞疑問文、試行の表現、テスト(2) 第11週－第15週 授受表現、目的の表現、様態の表現、移動の表現、難易表現、伝聞表現、使役表現、敬語、テスト(3)
テキスト	「みんなの日本語初級Ⅱ　本冊」（スリーエーネットワーク）
成績評価の方法	出席・試験・宿題

・レベル３

授業科目	総合日本語中級ＩＡ・ＩＢ
担当教官	浮田三郎・渡部浩見
目　　標	中級レベルの長文を読み、内容を理解する能力を身に付ける。今までに学んだ基本的な表現を使って、日本語で議論をしたり自分の意見を表現できるようにする。
内　　容	その課に出てくる文型、語彙等について解説を加えた後、長文を読み内容を理解したうえで、長文の内容についての質問に答える。適宜、トピックに関連した日本文化についての解説を加える。 本授業では次のトピックを扱う： クラスメート、手紙、誕生日、日曜日、結婚式、お花見、 アルバイト、家族、宇宙、留学生の生活、小旅行、犬好き、 風呂屋、東京での生活、曜日、正月、花火、体育の日、かまくら、 すもう、駅の売店、日本語のあいまいさ、ロボット、温泉と火山
テキスト	「日本語中級読解入門」（アルク）
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	総合日本語中級ＩＣ
担当教官	坂田光美
目　　標	さまざまな形式の文章表現を耳から理解できるようになる。
内　　容	１）トピックに関するＣＤを聞いて質問に答え、内容を理解する。 ２）スクリプトを使用した様々な練習をすることによって、総合的な日本語力を身につける。 ３）内容について話し合ったり、要約文を書いたりする。 本授業では次のトピックを扱う： いただきます、川を渡る、車は左、人は右？、千羽鶴 合格は誰のおかげ？、時差ぼけ、小判がこわい、 道路からメロディー、カラオケ発明者にノーベル賞？、 砂糖の消費量、盆栽、駅伝、波力発電、河童、 「もったいない」を国際語に！、思いがけない援助、 新幹線の顔、ビルの地下の野菜畑、イルカは頭がいい？、 留学生文学賞、菜の花プロジェクト、今日は何色のスーツですか 缶コーヒーの値段、あがらないためには、国際宇宙ステーション
テキスト	「新・毎日の聞き取り５０日 vol.2」（凡人社）
成績評価の方法	出席状況と試験および宿題による評価。

授業科目	総合日本語中級ＩＤ・ＩＥ
担当教官	浮田三郎・渡部浩見
目　　標	中級レベルの長い文章を読み、それが何を伝えようとしたものであるかを確実に読みとる読解力を身に付け、さらにその内容を的確に言語表現できる能力を養うことを目標とする。
内　　容	その課に出てくる文型、語彙等について解説を加えた後、長文を読み内容を理解したうえで、長文の内容についての質問に答える。適宜、トピックに関連した日本文化についての解説を加える。 第1週～第7週 新宿、工場見学、方言、思い出の人形、日本間、青と緑、テスト 第8週～第15週 マンガ、志のままに、すし、河童、寄席、睡眠、テスト
テキスト	「日本語2ndステップ」（白帝社）
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	総合日本語中級ＩＦ
担当教官	下村真理子
目　　標	音声教材を用いて、一定の長さの説明文や解説文の聞き取り能力を養うとともに総合的な日本語能力を高める。
内　　容	１）トピックに関するＣＤを聞いて質問に答え、内容を理解する。 ２）スクリプトを使用した様々な練習をすることによって、総合的な日本語力を身につける。 ３）内容について話し合ったり、要約文を書いたりする。 本授業では次のトピックを扱う： もしもし、旗のデザイン、海からの便り、カラスのカー子ちゃん たためるピアノ、日本人と果物、待つ時間・待たせる時間、 震度３、世界の人口、牛丼の作り方、ドライアイ、 日本の地方都市、横断歩道、弁当の日、コンビニ図書館、 右回りの時計、目にやさしい色、上手に泣いて、ストレス解消、 阿波踊り、富士山が見えるところ、アニメ文化の輸出、 十二支の話、東京を回る山手線、どんな結婚披露宴がいい？、 通話をやめた若者
テキスト	「新・毎日の聞き取り５０日 vol.1」（凡人社）
成績評価の方法	出席状況と平常点、および期末試験による総合評価。

・レベル４

授業科目	総合日本語中級ⅡＡ・ⅡＢ
担当教官	田村泰男・坂田光美
目　　標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内　　容	トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習する。 授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。 ～という、～に基づく～、～と同時に、～による、～際、～にかけて、～さえ、～なんて、こと、～を問わず、～ をめぐって、～ところ、～向き／～向け、～における、～上、～うえで、～なり、ＶたＮ、～という点、～にかかわる、～をもたらす、～に対して／～にとって、～ばかり／～だけ、～を通して／～を通じて、～ぶり、～とはいえ、～当たり、たとえ～も、～やら～やら、～に関する～、～限り、～がち、～っぽなし、～以上、～抜きの～、～おかげで／～せいで、～にもかかわらず、～につれて、～に例える、～に違いない、～得ない／～得る、～っぽい、～にしても、～つつ、～めく、～かのように、～結果、～に比べて、もの
テキスト	「中級を学ぼう　日本語の文型と表現８２」（ｽﾘｰｴｰﾈｯﾄﾜｰｸ）
成績評価の方法	出席、試験、宿題

授業科目	総合日本語中級ⅡＣ
担当教官	山中康子
目　　標	身近なトピックにより、日本に対する理解を深めるとともに、多様な場面や状況を理解し、語彙を増やす。聞き取りだけでなく、多角的な練習により、総合的な日本語の力を伸ばす。
内　　容	本授業では、次のようなトピックスを扱う： 回転寿司、郵便局からのお知らせ、名前のない手紙、 成績と朝ごはん、地震に強いビル、いちばん上の子、結婚相手、 太鼓のひびき、睡眠不足、お菓子のおまけ、進化するロボット、 人類はメン類、日本を知らない日本人、よみがえった日本の技術 若い登山家、変化する就職活動、三年寝太郎、屋上の緑化、 英語力や資格は必要ですか、燃料電池自動車
テキスト	「毎日の聞き取りplus40 下」（凡人社）
成績評価の方法	試験、出席、課題

授業科目	総合日本語中級ⅡＤ・ⅡＥ
担当教官	田村泰男・坂田光美
目　　標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内　　容	トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習し、部分作文によって新出項目の定着を図る。授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。　～ながら、～まい、～わけだ、～でも、～ほど、～なら、～ても、～てくる、～てしまう、～ながら、～よう、～がる、～ことにする／なる、～とか～とか、～させる、～てたまらない、～たばかり、～ものだ、～てみる、～中、～し～し、～かもしれません、～つもり、～くらい、～なければならない、～まま、～ようとしない、～たものだ、～から～にかけて、～ものの、～やら～やら、～につれて、～ば～ほど、～として、～によって、～ところ、～にとって、～はずだ、～さえ、～うちに、～はずがない
テキスト	「テーマ別中級から学ぶ日本語」（研究社）
成績評価の方法	出席、試験、宿題

授業科目	総合日本語中級ⅡＦ
担当教官	山中康子
目　　標	身近なトピックにより、日本に対する理解を深めるとともに、多様な場面や状況を理解し、語彙を増やす。聞き取りだけでなく、多角的な練習により、総合的な日本語の力を伸ばす。
内　　容	教材を聴く前に先ず、 (1)イラストによって、教材の内容を概観する。 (2)関連語彙や、背景となる知識を導入する。 (3)教材の内容に関する短い文章を読み、クイズに答える。 教材を聴いた後 (4)タスクに答える。 (5)話題に関連した補足説明を読み、知識を深める。 (6)語彙、表現の定着を図るために、口頭練習を行う。 (7)音声言語としての日本語についての理解を深める。
テキスト	「毎日の聞き取りplus40 上」（凡人社）
成績評価の方法	試験、出席、課題

授業科目	日本の教育と文化Ａ
担当教官	中矢礼美
目　　標	日本社会と文化を深く理解することを目的に、日本における子育て・学校教育・社会教育の歴史と現状から，日本社会の発展と課題，文化に与える影響を紹介し、学生は比較考察や議論を行う。
内　　容	オリエンテーション（社会学的な見方）、日本の子育て文化（歴史・文化編）、日本の子育て政策と現状（社会編）、日本の学校教育の発展（江戸時代）、日本の学校教育の展開１（明治・大正期）、日本の学校教育の展開２（昭和期）、日本の学校教育の現在（平成）、日本の学校文化（規律文化）、日本の学校文化（和と輪と集団主義）、日本の学校文化（権威主義と民主主義）、日本の学校文化（いじめ問題）、日本の社会教育１（歴史編）、日本の社会教育２（公民館）、学生グループ討議・発表
テキスト	適宜配布する。
成績評価の方法	出席（欠席3回まで）、授業態度50％、毎回のコメント用紙20％、レポート30％

授業科目	日本の教育と文化Ｂ
担当教官	中矢礼美
目　　標	日本社会と文化を深く理解することを目的に、日本における子育て・学校教育・社会教育の歴史と現状から，日本社会の発展と課題，文化に与える影響を紹介し、学生は比較考察や議論を行う。
内　　容	オリエンテーション（社会学的な見方）、日本人のイニシエーション１（妊娠・出産・産後）、日本人のイニシエーション２（子ども期）、日本人のイニシエーション３（青年期）、日本人のイニシエーション4（成人期）、日本の学校におけるキャリア教育１（自己発見）、日本の学校におけるキャリア教育２（職業意識）、日本の学校におけるキャリア教育３（実習・進路選択）、日本の学校における伝統文化の継承日本の地域社会の仕組みと特徴①、日本の学校における伝統文化の継承、日本の学校における歴史教育、日本の学校における国際理解教育、日本の学校における言語教育、学生グループ討議・発表、学生グループ討議・発表
テキスト	事前に資料を配布します。
成績評価の方法	出席（欠席は3回まで）、授業態度30％、コメント用紙20％、レポート30％

・レベル５

授業科目	日本語聴解特別演習Ａ
担当教官	深見兼孝
目　　標	講演の日本語の内容を聞き取る能力を身につける。
内　　容	第1回　導入。寝ているとき 第2回～第4回　昨日の私と今日の私 第5回～第6回　りんご　　第7回　情報化社会 第8回　個性的であること　第9回～第10回　話せばわかる 第11回　伝統芸能　　第12回～第14回　子育て 第15回　地方と都会 各回とも、語句のチェック、聞き取り練習、スクリプトによる確認の順で授業を進める。
テキスト	CD『養老孟司が語る「わかる」ということ』
成績評価の方法	試験、出席、授業態度などを総合的に評価する。

授業科目	日本語聴解特別演習Ｂ
担当教官	深見兼孝
目　　標	ラジオドラマの日本語を聞き取る力を養成する。
内　　容	第1回～第4回　出会い 第5回～第7回　江夏 第8回～第10回　野球場 第11回　再会 第12回～第14回　プレゼント 第15回　エピローグ 各回とも、語句のチェック、聞き取り練習、スクリプトによる確認
テキスト	『ラジオドラマCD博士の愛した数式』
成績評価の方法	試験、出席、授業態度などを総合的に評価する。

授業科目	日本語分析特別演習A
担当教官	中川正弘
目　　標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内　　容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらう。その作文は、自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間 違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。前期は日本語への翻訳、要約を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価の方法	提出作文、テスト

授業科目	日本語分析特別演習B
担当教官	中川　正弘
目　　標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内　　容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。後期は報告文、説明文を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価の方法	提出作文、テスト

授業科目	日本語表現特別演習Ａ
担当教官	浮田三郎
目　　標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内　　容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。 テーマ別には、以下に掲げる通りである。 1.諺の表現法　2.親と子　3.夫婦　4.恋愛 5.油断と用心　6.欲　7.酒　8.友　9.秘密
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（１９８２年）等
成績評価の方法	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	日本語表現特別演習Ｂ
担当教官	浮田　三郎
目　　標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内　　容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。テーマ別には、以下に掲げる通りである。 1.睡眠　2.病気　3.生死　4.季節　5.天候 6.学者　7.教育　8.義理　9.動物と比喩
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（１９８２年）等
成績評価の方法	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	日本語語彙特別演習Ａ
担当教官	田村泰男
目　　標	常用漢字に採択されている漢字の訓読みや慣用句、擬音語・擬態語を学習することによって、より自然な日本語表現能力の習得を目指す。
内　　容	1.漢字の訓読み 2.同訓異字 3.各種比喩表現 4.身体語彙を使った慣用句 5.動植物の語彙を使った慣用句 6.擬音語・擬態語
テキスト	プリントを配布する。
成績評価の方法	テスト、出席、宿題

授業科目	日本語語彙特別演習Ｂ
担当教官	田村泰男
目　　標	慣用的な読み方をする漢字や類義語、接頭辞・接尾辞などを学習することによって、日本語での表現能力を高めるとともに、各種類意表現のもつ意味上の微妙な違いについての理解をはかる。
内　　容	1.特別な読み方をする漢字 2.送り仮名によって読み方の違う漢字 3.読み方が二通りある漢字熟語 4.国字　5.畳語　6.類義語・類意表現 7.若者語　8.外来語　9.接頭辞・接尾辞
テキスト	プリントを配布する。
成績評価の方法	テスト、出席、宿題

授業科目	映像日本語特別演習Ａ
担当教官	石原淳也
目　　標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと、2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと、3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること、4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ることを目標とする。
内　　容	第1週-第9週 「金融腐食列島」を最後まで見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。 第10週-第15週 「うる星やつら」を見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価の方法	出席・授業態度・レポート

授業科目	映像日本語特別演習Ｂ
担当教官	石原淳也
目　　標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、 1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと 2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと 3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること 4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ることを目標とする。
内　　容	映画・アニメーションを見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価の方法	出席・授業態度・レポート

授業科目	論文作成法A
担当教官	中矢礼美
目　　標	大学の講義を受講したり、研究活動を行ったりするのに必要な高度な日本語の運用能力を身につける。学術的なテーマについて、日本語による討議、発表、レポート・論文作成ができる能力を育成する。
内　　容	第1回 レポートの文体　第2回 課題の提示 第3回 目的の提示　第4回 定義と分類 第5回 図表の提示　第6回 変化の形容 第7回 対比と比較　第8回 原因の考察 第9回 列挙　第10回 引用 第11回 同意と反論　第12回 帰結 第13回 結論の提示　第14回 文型・表現 第15回 日本語論文モデルの購読・解説
テキスト	『留学生の日本語④論文作成編』
成績評価の方法	出席、授業態度、試験結果

授業科目	論文作成法B
担当教官	中矢礼美
目　　標	大学の講義を受講したり、研究活動を行ったりするのに必要な高度な日本語の運用能力を身につける。学術的なテーマについて、日本語による討議、発表、レポート・論文作成ができる能力を育成する。
内　　容	第1回 レポートの文体　第2回 課題の提示 第3回 目的の提示　第4回 定義と分類 第5回 図表の提示　第6回 変化の形容 第7回 対比と比較　第8回 原因の考察 第9回 列挙　第10回 引用 第11回 同意と反論　第12回 帰結 第13回 結論の提示　第14回 文型・表現 第15回 日本語論文モデルの購読・解説
テキスト	『留学生の日本語④論文作成編』
成績評価の方法	出席、授業態度、試験結果

・日本事情

授業科目	日本の社会・文化Ａ
担当教官	中矢礼美
目　　標	この授業の目標は、現代日本における特徴的な社会現象あるいは問題をとりあげ、社会学、生命倫理学、教育学の視点から読み解き、日本の社会と文化に対する認識をより深めることである。
内　　容	1.2. 若者のライフスタイルと職業意識 3.4. 日本における「中流階級文化」 5.6. ジェンダーフリー　7. 試験 8.9. 生命倫理　10.11.12. 現代家族の様相 13.14.現代の教育課題と教育改革　15. 試験
テキスト	テキストは特になし。毎回の授業テーマに沿った資料をコピーして配布する。
成績評価の方法	出席50％、試験50％

授業科目	日本の社会・文化Ｂ
担当教官	中矢礼美
目　　標	この授業の目標は、現代日本における特徴的な社会現象あるいは問題をとりあげ、社会学、教育学、人類学の視点から読み解き、日本の社会と文化に対する認識をより深めることである。
内　　容	1. 2.　メディアとは何か 3. 4.　サブカルチャーとは何か 5. 6.　少年犯罪 7.　試験 8. 9.　男性学と女性学 10. 11.　教育問題―不登校・学級崩壊 12. 13. 14.　観光人類学－観光のしかけ・観光が作り出す文化 15.　試験
テキスト	テキストは特になし。毎回の授業テーマに沿った資料をコピーして配布する。
成績評価の方法	出席50％、試験50％

・特定研究

授業科目	日本語・日本文化特別研究Ⅰ
担当教官	中川正弘・田村泰男・石原淳也
目　　標	一連の特別講義、および見学・実習から、高度な日本語の知識や運用能力を身に付け、日本および広島周辺の社会・文化についての理解を深める。
内　　容	日本語・日本文化研修プログラムの一環として、日本語・日本文化に関する講義、日本および広島周辺地域における社会、産業、文化を理解するための実地研修ならびに研究指導を行なう。 オリエンテーション、日本語・日本文化特別講義I～VI、 地域研修I～VI、研修レポート構想発表
テキスト	必要に応じてプリントを配布。
成績評価の方法	出席・レポート・宿題

授業科目	日本語・日本文化特別研究Ⅱ
担当教官	中川正弘・田村泰男・石原淳也
目　　標	一連の特別講義、および見学・実習から、高度な日本語の知識や運用能力を身に付け、日本および広島周辺の社会・文化についての理解を深める。
内　　容	日本語・日本文化研修プログラムの一環として、日本語・日本文化に関する講義、日本および広島周辺地域における社会、産業、文化を理解するための実地研修ならびに研究指導を行なう。 オリエンテーション 研修レポート構想発表 日本語・日本文化特別講義VII～XII 地域研修VII～XII 研修レポート要旨発表
テキスト	必要に応じてプリントを配布。
成績評価の方法	出席・レポート・宿題

（霞キャンパス）
・レベル１

授業科目	総合日本語初級ＩＡ・ＩＢ
担当教官	山中康子・渡部浩見
目　　標	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。
内　　容	ガイダンス、ひらがな、毎日の挨拶、ひらかな練習，自己紹介、カタカナ、疑問表現、かな練習、提示の表現、目的語　日常活動の表現、時間表現、行動予定の表現、完了時制１）、移動の動詞、時の表現、勧誘の動詞、存在の動詞、位置の表現、目的の表現、授受の表現、形容詞、完了時制２）、希望の表現、好悪･程度の表現、比較･最上級、期末試験
テキスト	「Basic Japanese for Students はかせＩ」（スリーエーネットワーク）
成績評価の方法	出席・試験・宿題

・レベル２

授業科目	総合日本語初級ⅡＡ
担当教官	渡部浩見
目　　標	初級後半レベルの基礎的な語彙・文型・表現を学習し、併せて種々の場面に応じた実用的な日本語表現能力を習得させる。
内　　容	ガイダンス、レベルチェック、初級１の復習、理由の表現、丁寧表現、助数詞、依頼表現、継起的動作、時間・期間の表現、進行中の動作、習慣・家族について話す、許可・禁止の表現、動詞の否定形、経験の表現、助言・提案の表現、スケジュールをメモする、動詞の辞書形、可能表現、趣味を語る、名詞句、意見を述べる、伝言を伝える、普通体の使い方、同時制の従属節、条件・譲歩の従属節、話し言葉の文体、状態の変化、 お礼の手紙を書く、期末試験
テキスト	「Basic Japanese for Students はかせⅡ」（スリーエーネットワーク）
成績評価の方法	出席・試験

留学生関係科目
（2013年4月～2014年3月）

田村泰男

1．授業科目一覧
・東広島キャンパス

授業科目	開設単位数	学期別週授業時数 前期	学期別週授業時数 後期	備考
Elementary Japanese I A	2		2	広島大学短期交換留学生のための授業である。
Elementary Japanese I B	2		2	
Elementary Japanese I C	2		2	
Elementary Japanese I D	2		2	
Elementary Japanese I E	2		2	
Elementary Japanese II A	2・2	2	2	
Elementary Japanese II B	2・2	2	2	
Elementary Japanese II C	2・2	2	2	
Intermediate Japanese I A	2		2	
Intermediate Japanese I B	2		2	
Intermediate Japanese I C	2		2	
Intermediate Japanese I D	2	2		
Intermediate Japanese I E	2	2		
Intermediate Japanese I F	2	2		
Intermediate Japanese II A	2		2	
Intermediate Japanese II B	2		2	
Intermediate Japanese II C	2		2	
Intermediate Japanese II D	2	2		
Intermediate Japanese II E	2	2		
Intermediate Japanese II F	2	2		

Japanese Education and Culture A	2	2		
Japanese Education and Culture B	2		2	
Advanced Japanese A (Listening)	2	2		
Advanced Japanese B (Listening)	2		2	
Advanced Japanese A (Analysis)	2	2		
Advanced Japanese B (Analysis)	2		2	
Advanced Japanese A (Expression)	2	2		
Advanced Japanese B (Expression)	2		2	
Advanced Japanese A (Lexical)	2	2		
Advanced Japanese B (Lexical)	2		2	
Advanced Japanese A (Cinema)	2	2		
Advanced Japanese B (Cinema)	2		2	
Academic Writing A	2	2		
Academic Writing B	2		2	
Japanese Society and Culture A	2	2		
Japanese Society and Culture B	2		2	

２．授業内容

（東広島キャンパス）

・レベル１

授業科目	Elementary Japanese ＩA・ＩB・ＩC・ＩD・ＩE
担当教官	石原淳也・深見兼孝・堀田泰司・山中康子・渡辺久美
目　　標	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。
内　　容	第1週－第8週 ひらがな、カタカナと日本語の発音、あいさつ、数詞、名詞文、指示詞、時間表現、自動詞文、移動の動詞、他動詞文、斜格助詞、形容詞、目的語+が、存在表現、数量詞、比較、中間試験 第9週－第15週 要求・希望、テ形、許可・禁止、進行、連続した行為、ナイ形、禁止、義務、第十八課　辞書形、第十九課　普通形過去、引用、関係節、時を表す従属節、授受動詞、条件節、期末試験
テキスト	「みんなの日本語初級Ｉ　本冊」（スリーエーネットワーク）
成績評価の方法	出席・試験・宿題

・レベル２

授業科目	Elementary Japanese ⅡA・ⅡB・ⅡC
担当教官	恒松直美
目　　標	初級後半レベルの基礎的な語彙・文型・表現を学習し、併せて種々の場面に応じた実用的な日本語表現能力を習得させる。
内　　容	第1週－第5週 依頼表現、可能表現、継続・習慣の表現、理由の表現、意志・予定の表現、完了表現、自動詞／他動詞、推量表現、忠告の表現、命令・禁止表現、テスト(1) 第6週－第10週 時間表現、付帯状況の表現、条件表現、目的・目標の表現、状態変化の表現、受身表現、形式名詞、理由・原因の表現、疑問詞疑問文、試行の表現、テスト(2) 第11週－第15週 授受表現、目的の表現、様態の表現、移動の表現、難易表現、伝聞表現、使役表現、敬語、テスト(3)
テキスト	「みんなの日本語初級Ⅱ　本冊」（スリーエーネットワーク）
成績評価の方法	出席・小テスト・宿題・中間期末試験

・レベル３

授業科目	Intermediate Japanese ＩA・ＩB
担当教官	石原淳也
目　　標	中級レベルの長い文章を読み、それが何を伝えようとしたものであるかを確実に読みとる読解力を身に付け、さらにその内容を的確に言語表現できる能力を養うことを目標とする。
内　　容	その課に出てくる文型、語彙等について解説を加えた後、長文を読み内容を理解したうえで、長文の内容についての質問に答える。適宜、トピックに関連した日本文化についての解説を加える。 第1週～第7週 　新宿、工場見学、方言、思い出の人形、日本間、青と緑、テスト 第8週～第15週 　マンガ、志のままに、すし、河童、寄席、睡眠、テスト
テキスト	「日本語2ndステップ」（白帝社）
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese ＩC
担当教官	下村真理子
目　　標	音声教材を用いて、一定の長さの説明文や解説文の聞き取り能力を養うとともに総合的な日本語能力を高める。
内　　容	１）トピックに関するＣＤを聞いて質問に答え、内容を理解する。 ２）スクリプトを使用した様々な練習をすることによって、総合的な日本語力を身につける。 ３）内容について話し合ったり、要約文を書いたりする。 本授業では次のトピックを扱う： 　もしもし、旗のデザイン、海からの便り、カラスのカー子ちゃん 　たためるピアノ、日本人と果物、待つ時間・待たせる時間、 　震度３、世界の人口、牛丼の作り方、ドライアイ、 　日本の地方都市、横断歩道、弁当の日、コンビニ図書館、 　右回りの時計、目にやさしい色、上手に泣いて、ストレス解消、 　阿波踊り、富士山が見えるところ、アニメ文化の輸出、 　十二支の話、東京を回る山手線、どんな結婚披露宴がいい？、 　通話をやめた若者
テキスト	「新・毎日の聞き取り５０日 vol.1」（凡人社）
成績評価の方法	出席状況と平常点、および期末試験による総合評価。

授業科目	Intermediate Japanese ＩＤ・ＩＥ
担当教官	石原淳也
目　　標	中級レベルの長文を読み、内容を理解する能力を身に付ける。今までに学んだ基本的な表現を使って、日本語で議論をしたり自分の意見を表現できるようにする。
内　　容	その課に出てくる文型、語彙等について解説を加えた後、長文を読み内容を理解したうえで、長文の内容についての質問に答える。適宜、トピックに関連した日本文化についての解説を加える。 第1週～第7週 新宿、工場見学、方言、思い出の人形、日本間、青と緑、テスト 第8週～第15週 マンガ、志のままに、すし、河童、寄席、睡眠、テスト
テキスト	「日本語2ndステップ」（白帝社）
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese ＩＦ
担当教官	下村真理子
目　　標	さまざまな形式の文章表現を耳から理解できるようになる。
内　　容	１）トピックに関するＣＤを聞いて質問に答え、内容を理解する。 ２）スクリプトを使用した様々な練習をすることによって、総合的な日本語力を身につける。 ３）内容について話し合ったり、要約文を書いたりする。 本授業では次のトピックを扱う： いただきます、川を渡る、車は左、人は右？、千羽鶴 合格は誰のおかげ？、時差ぼけ、小判がこわい、 道路からメロディー、カラオケ発明者にノーベル賞？、 砂糖の消費量、盆栽、駅伝、波力発電、河童、 「もったいない」を国際語に！、思いがけない援助、 新幹線の顔、ビルの地下の野菜畑、イルカは頭がいい？、 留学生文学賞、菜の花プロジェクト、今日は何色のスーツですか 缶コーヒーの値段、あがらないためには、国際宇宙ステーション
テキスト	「新・毎日の聞き取り５０日 vol.2」（凡人社）
成績評価の方法	出席と試験および宿題による評価。

・レベル４

授業科目	Intermediate Japanese II A・II B
担当教官	田村泰男
目　　標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内　　容	トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習し、部分作文によって新出項目の定着を図る。授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。　～ながら、～まい、～わけだ、～でも、～ほど、～なら、～ても、～てくる、～てしまう、 ～ながら、～よう、～がる、～ことにする／なる、～とか～とか、 ～させる、～てたまらない、～たばかり、～ものだ、～てみる、～中、～し～し、～かもしれません、～つもり、～くらい、～なければならない、～まま、～ようとしない、～たものだ、～から～にかけて、～ものの、～やら～やら、～につれて、～ば～ほど、～として、～によって、～ところ、～にとって、～はずだ、～さえ、～うちに、～はずがない
テキスト	「テーマ別中級から学ぶ日本語」（研究社）
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese II C
担当教官	坂田光美
目　　標	身近なトピックにより、日本に対する理解を深めるとともに、多様な場面や状況を理解し、語彙を増やす。聞き取りだけでなく、多角的な練習により、総合的な日本語の力を伸ばす。
内　　容	教材を聴く前に先ず、 (1)イラストによって、教材の内容を概観する。 (2)関連語彙や、背景となる知識を導入する。 (3)教材の内容に関する短い文章を読み、クイズに答える。 教材を聴いた後 (4)タスクに答える。 (5)話題に関連した補足説明を読み、知識を深める。 (6)語彙、表現の定着を図るために、口頭練習を行う。 (7)音声言語としての日本語についての理解を深める。
テキスト	「毎日の聞き取りplus40 上」（凡人社）
成績評価の方法	試験、出席、課題

授業科目	Intermediate Japanese II D・II E
担当教官	田村泰男
目　　標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内　　容	トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習する。 授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。 　　～という、～に基づく～、～と同時に、～による、～際、～にかけて、～さえ、～なんて、こと、～を問わず、～ をめぐって、～と　ころ、～向き／～向け、～における、～上、～うえで、～なり、Ｖ たＮ、～という点、～にかかわる、～をもたらす、～に対して／～ にとって、～ばかり／～だけ、～を通して／～を通じて、～ぶり、 ～とはいえ、～当たり、たとえ～も、～やら～やら、～に関する ～、～限り、～がち、～っぽなし、～以上、～抜きの～、～おかげで／～せいで、～にもかかわらず、～につれて、～に例る、～に違いない、～得ない／～得る、～っぽい、～にしても、～つつ、～めく、～かのように、～結果、～に比べて、もの
テキスト	「中級を学ぼう　日本語の文型と表現８２」（ｽﾘｰｴｰﾈｯﾄﾜｰｸ）
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese II F
担当教官	坂田光美
目　　標	身近なトピックにより、日本に対する理解を深めるとともに、多様な場面や状況を理解し、語彙を増やす。聞き取りだけでなく、多角的な練習により、総合的な日本語の力を伸ばす。
内　　容	教材を聴く前に先ず、 (1)イラストによって、教材の内容を概観する。 (2)関連語彙や、背景となる知識を導入する。 (3)教材の内容に関する短い文章を読み、クイズに答える。 教材を聴いた後 (4)タスクに答える。 (5)話題に関連した補足説明を読み、知識を深める。 (6)語彙、表現の定着を図るために、口頭練習を行う。 (7)音声言語としての日本語についての理解を深める。
テキスト	「毎日の聞き取りplus40 下」（凡人社）
成績評価の方法	中間試験、期末試験、及び出席状況を考慮して評価する。

授業科目	Japanese Education and Culture A
担当教官	中矢礼美
目　　標	日本社会と文化を深く理解することを目的に、日本における子育て・学校教育・社会教育の歴史と現状から，日本社会の発展と課題，文化に与える影響を紹介し、学生は比較考察や議論を行う。
内　　容	オリエンテーション（社会学的な見方）、日本の子育て文化（歴史・文化編）、日本の子育て政策と現状（社会編）、日本の学校教育の発展（江戸時代）、日本の学校教育の展開１（明治・大正期）、日本の学校教育の展開２（昭和期）、日本の学校教育の現在（平成）、日本の学校文化（規律文化）、日本の学校文化（和と輪と集団主義）、日本の学校文化（権威主義と民主主義）、日本の学校文化（いじめ問題）、日本の社会教育１（歴史編）、日本の社会教育２（公民館）、学生グループ討議・発表
テキスト	適宜配布する。
成績評価の方法	出席（欠席3回まで）、授業態度50％、毎回のコメント用紙20％、レポート30％

授業科目	Japanese Education and Culture B
担当教官	中矢礼美
目　　標	日本社会と文化を深く理解することを目的に、日本における子育て・学校教育・社会教育の歴史と現状から，日本社会の発展と課題，文化に与える影響を紹介し、学生は比較考察や議論を行う。
内　　容	オリエンテーション（社会学的な見方）、日本人のイニシエーション１（妊娠・出産・産後）、日本人のイニシエーション２（子ども期）、日本人のイニシエーション３（青年期）、日本人のイニシエーション4（成人期）、日本の学校におけるキャリア教育１（自己発見）、日本の学校におけるキャリア教育２（職業意識）、日本の学校におけるキャリア教育３（実習・進路選択）、日本の学校における伝統文化の継承日本の地域社会の仕組みと特徴①、日本の学校における伝統文化の継承、日本の学校における歴史教育、日本の学校における国際理解教育、日本の学校における言語教育、学生グループ討議・発表、学生グループ討議・発表
テキスト	事前に資料を配布します。
成績評価の方法	出席（欠席は3回まで）、授業態度30％、コメント用紙20％、レポート30％

・レベル５

授業科目	Advanced Japanese A (Listening)
担当教官	深見兼孝
目　　標	講演の日本語の内容を聞き取る能力を身につける。
内　　容	第1回　導入。寝ているとき 第2回～第4回　昨日の私と今日の私 第5回～第6回　りんご　　第7回　情報化社会 第8回　個性的であること　第9回～第10回　話せばわかる 第11回　伝統芸能　　第12回～第14回　子育て 第15回　地方と都会 各回とも、語句のチェック、聞き取り練習、スクリプトによる確認の順で授業を進める。
テキスト	CD『養老孟司が語る「わかる」ということ』
成績評価の方法	試験、出席、授業態度などを総合的に評価する。

授業科目	Advanced Japanese B (Listening)
担当教官	深見 兼孝
目　　標	ラジオドラマの日本語を聞き取る力を養成する。
内　　容	第1回～第4回　出会い 第5回～第7回　江夏 第8回～第10回　野球場 第11回　再会 第12回～第14回　プレゼント 第15回　エピローグ 各回とも、語句のチェック、聞き取り練習、スクリプトによる確認の順で授業を進める。
テキスト	『ラジオドラマCD博士の愛した数式』
成績評価の方法	試験、出席、授業態度などを総合的に評価する。

授業科目	Advanced Japanese A (Analysis)
担当教官	中川正弘
目　　標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内　　容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらう。その作文は、自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく 。前期は日本語への翻訳、要約を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価の方法	提出作文、テスト

授業科目	Advanced Japanese B (Analysis)
担当教官	中川正弘
目　　標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内　　容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらう。その作文は、自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。後期は報告文、説明文を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価の方法	提出作文、テスト

授業科目	Advanced Japanese A (Expression)
担当教官	浮田三郎
目　　標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内　　容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。 テーマ別には、以下に掲げる通りである。 1.諺の表現法　2.親と子　3.夫婦　4.恋愛 5.油断と用心　6.欲　7.酒　8.友　9.秘密
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（１９８２年）等
成績評価の方法	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	Advanced Japanese B (Expression)
担当教官	浮田　三郎
目　　標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内　　容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。テーマ別には、以下に掲げる通りである。 1.睡眠　2.病気　3.生死　4.季節　5.天候 6.学者　7.教育　8.義理　9.動物と比喩
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（１９８２年）等
成績評価の方法	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	Advanced Japanese A (Lexical)
担当教官	田村泰男
目　　標	常用漢字に採択されている漢字の訓読みや慣用句、擬音語・擬態語を学習することによって、より自然な日本語表現能力の習得を目指す。
内　　容	1.漢字の訓読み 2.同訓異字 3.各種比喩表現 4.身体語彙を使った慣用句 5.動植物の語彙を使った慣用句 6.擬音語・擬態語
テキスト	プリントを配布する。
成績評価の方法	テスト、出席、宿題

授業科目	Advanced Japanese B (Lexical)
担当教官	田村　泰男
目　　標	慣用的な読み方をする漢字や類義語、接頭辞・接尾辞などを学習することによって、日本語での表現能力を高めるとともに、各種類意表現のもつ意味上の微妙な違いについての理解をはかる。
内　　容	1.特別な読み方をする漢字 2.送り仮名によって読み方の違う漢字 3.読み方が二通りある漢字熟語 4.国字　5.畳語　6.類義語・類意表現 7.若者語　8.外来語　9.接頭辞・接尾辞
テキスト	プリントを配布する。
成績評価の方法	テスト、出席、宿題

授業科目	Advanced Japanese A (Cinema)
担当教官	石原淳也
目　　標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと、2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと、3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること、4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ることを目標とする。
内　　容	第1週-第9週 「金融腐食列島」を最後まで見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。 第10週-第15週 「うる星やつら」を見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価の方法	出席・授業態度・レポート

授業科目	Advanced Japanese B (Cinema)
担当教官	石原淳也
目　　標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、 1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと 2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと 3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること 4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ることを目標とする。
内　　容	映画・アニメーションを見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価の方法	出席・授業態度・レポート

授業科目	Academic Writing A
担当教官	中矢礼美
目　　標	大学の講義を受講したり、研究活動を行ったりするのに必要な高度な日本語の運用能力を身につける。学術的なテーマについて、日本語による討議、発表、レポート・論文作成ができる能力を育成する。
内　　容	第1回　レポートの文体　第2回　課題の提示 第3回　目的の提示　第4回　定義と分類 第5回　図表の提示　第6回　変化の形容 第7回　対比と比較　第8回　原因の考察 第9回　列挙　第10回　引用 第11回　同意と反論　第12回　帰結 第13回　結論の提示　第14回　文型・表現 第15回　日本語論文モデルの購読・解説
テキスト	『留学生の日本語④論文作成編』
成績評価の方法	出席、授業態度、試験結果

授業科目	Academic Writing B
担当教官	中矢礼美
目　　標	大学の講義を受講したり、研究活動を行ったりするのに必要な高度な日本語の運用能力を身につける。学術的なテーマについて、日本語による討議、発表、レポート・論文作成ができる能力を育成する。
内　　容	第1回　レポートの文体　第2回　課題の提示 第3回　目的の提示　第4回　定義と分類 第5回　図表の提示　第6回　変化の形容 第7回　対比と比較　第8回　原因の考察 第9回　列挙　第10回　引用 第11回　同意と反論　第12回　帰結 第13回　結論の提示　第14回　文型・表現 第15回　日本語論文モデルの購読・解説
テキスト	『留学生の日本語④論文作成編』
成績評価の方法	出席、授業態度、試験結果

・日本事情

授業科目	Japanese Society and Culture A
担当教官	中矢礼美
目　　標	この授業の目標は、現代日本における特徴的な社会現象あるいは問題をとりあげ、社会学、生命倫理学、教育学の視点から読み解き、日本の社会と文化に対する認識をより深めることである。
内　　容	1.2. 若者のライフスタイルと職業意識 3.4. 日本における「中流階級文化」 5.6. ジェンダーフリー　7. 試験 8.9. 生命倫理　10.11.12. 現代家族の様相 13.14.現代の教育課題と教育改革　15. 試験
テキスト	テキストは特になし。毎回の授業テーマに沿った資料をコピーして配布する。
成績評価の方法	出席50%、試験50%

授業科目	Japanese Society and Culture B
担当教官	中矢礼美
目　　標	この授業の目標は、現代日本における特徴的な社会現象あるいは問題をとりあげ、社会学、教育学、人類学の視点から読み解き、日本の社会と文化に対する認識をより深めることである。
内　　容	1. 2.　メディアとは何か 3. 4.　サブカルチャーとは何か 5. 6.　少年犯罪 7.　試験 8. 9.　男性学と女性学 10. 11.　教育問題―不登校・学級崩壊 12. 13. 14.　観光人類学－観光のしかけ・観光が作り出す文化 15.　試験
テキスト	テキストは特になし。毎回の授業テーマに沿った資料をコピーして配布する。
成績評価の方法	出席50%、試験50%

第 28 期（2012 － 2013）
日本語・日本文化研修プログラム

石原淳也

＜プログラム概要＞

本プログラムは、本国際センター（2010 年に旧留学生センターから改組）で受け入れる大使館推薦による「日本語・日本文化研修プログラム」研修留学生を中心に、部局間協定に基づき教育学部で受け入れられている「日本語・日本文化研修プログラム」研修留学生を対象に加え、国際センターの四人の教員からなる「日本語・日本文化研修プログラム実施委員会」により運営され、(1) 全学の留学生向けの「日本語・日本事情」で開設されているクラスから選択履修する「日本語研修」、(2) 学内、学外の講師による特別講義および文化施設・文化財等の見学などからなる「日本語・日本文化特別研究 I, II」、そして (3) 指導教員のもとでの「個別指導および課題研究」の三つの内容により構成されている。

研修生は「個別指導および課題研究」での研究経過を「日本語・日本文化特別研究 I, II」の時間中に構想発表および中間発表として発表するとともに、修了式の前に行われる研修成果発表会においてその研究の成果を発表し、指導教員と国際センターにレポートを提出する。国際センターでは毎年これらをまとめて研修レポート集として刊行している。

＜受け入れ学生の概要＞

第 28 期は国際センター受入のトルコ、ベトナム、フィンランド、イランからの学生それぞれ 1 名名、部局間協定に基づく教育学部受け入れのインドネシア、ニュージーランドからの学生が各 1 名、JASSO の交換留学生として教育学部受け入れのインドネシアからの学生が一名の計 7 名（全て女性）でプログラムを実施した。

＜特別講義等＞

2012 年度（第 28 期）日本語・日本文化特別研究、および、その他の行事は、以下の通りである。

		（担当者）
10 月		
5 日	プレイスメント・テスト	
	オリエンテーション	中川
9 日	開講式	
12 日	特別講義「音声学」	石原
19 日	広島見学１（広島城・平和公園）	石原
26 日	特別講義「現代日本語の語彙」	田村
11 月		
2 日	広島見学２（現代美術館ほか/HS 協会対面）	中川
9 日	特別講義「日本語と文体」	中川
16 日	特別講義「第二言語の学習ストラテジー」教育学研究科	畑佐
25 日	特別講義「俳句入門」	浮田
30 日	宮島見学	石原
12 月		
7 日	特別講義「俳句入門」	浮田
14 日	マツダ見学	石原
21 日	自己研修	
1 月		
11 日	自己研修	
18 日	特別講義「世界の平和教育」	中矢
25 日	福山見学	田村
3 月		
29-30 日	瀬戸内海しまなみ研修ツアー	中川

4 月

5 日	プレイスメントテスト	
12 日	オリエンテーション２	中川
19 日	特別講義「比較言語文化論の視点」	浮田
26 日	研修レポート構想発表	石原

5 月

3 日	祝日（ゴールデンウィーク）	
10 日	特別講義「沖縄のことば」	多和田
17 日	尾道見学	田村
24 日	特別講義「日本の高等教育の国際化と市場化」	中矢
31 日	特別講義「古事記と日本神話」	石原

6 月

7 日	特別講義「日本社会とジェンダー」	恒松
14 日	呉見学：大和ミュージアム他	中川
21 日	特別講義「日本語と文体 2」	中川
29 日（土）	ホームステイ協会交流会	中川

7 月

6 日	サタケ見学	中川
12 日	中間発表準備	
15 日	研修レポート中間発表	石原
26-27 日	松江・出雲見学旅行	石原

9 月

6 日	レポート提出締め切り
9 日	研修成果発表会、修了式

第 14 期　平成 25 年度（2013 年度）
日韓共同理工系学部留学生事業入学前予備教育

石原淳也

平成 10 年 10 月の「日韓共同宣言」、平成 12 年 8 月に文部省より通知のあった「日韓共同理工系学部留学生事業実施要項」、同年 8 月に決定された「広島大学日韓理工系学部留学生事業」実施要項および「広島大学日韓理工系学部留学生事業」入学前予備教育実施要項に基づき、平成 12 年 11 月より広島大学においても学部入学前予備教育生に対する「広島大学日韓理工系学部留学生事業」の予備教育が開始された。以来、平成 15 年度まで各 5 名ずつ、平成 16 年度 2 名、17 年度 5 名、18 年度 4 名、19 年度、20 年度は 5 名、21 年度 2 名，22 年度 5 名、23 年度 5 名、24 年度は 6 名と途切れることなく学部入学前予備教育生を受け入れ、25 年度も 7 名の予備教育生を受け入れることとなった。

旧留学生センターは同事業の立ち上げ段階である平成 12 年 6 月の「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業」ワーキンググループの発足段階から同事業の予備教育実施機関として中心的な役割を果たしてきた。法人化による国際交流委員会の廃止で、平成 16 年度より 21 年度まで「広島大学日韓理工系学部留学生事業」実施部会は留学生センター運営委員会のもとに組織されてきたが、22 年度からは、旧留学生センターの改組に伴い、留学生センター運営委員会が廃止されたため、「広島大学日韓理工系学部留学生事業」実施部会は国際センター長を部会長として国際センターの下に組織されている。国際センター（旧留学生センター）からはセンター長のほか、石原准教授が委員・副部会長として部会に参加している。

本事業において国際センターは

1. 「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業」実施部会への参加
2. 「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業」予備教育の実施
3. 学部入学前予備教育生に対する修学上・生活上の指導・助言
4. 「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業」予備教育の計画策定
5. 見学引率
6. 日本語教育謝金講師の指導・サポート
7. その他謝金講師のサポート
8. 学生チューターの指導

等の業務を行っている。

本学で実施する予備教育について

・日本語科目

平成 15 年度までは、入学前予備教育において、日韓共同理工系学部留学生用に特別の日本語教育を実施していたが、平成 16 年度からは全学の留学生に向け開講されている「日本語・日本事情」を履修させることとなった。また、以前は、学生の日本語能力に合わせ、レベル３，４を履修させていたが、22 年度からレベル４，５を履修させることとなった。しかしながら、レベル４で使用されている教科書が、韓国国内で行われている予備教育の前半課程において開講されている一部の日本語の授業で使われていることから、本年度より、本予備教育生のためだけにレベル４相当の授業を二コマ１０週にわたって開講することとなった。なお、従来より、学生の日本語能力の差にきめ細かく目配りできるよう、本予備教育生のみを対象とした日本語会話、日本語作文、日韓文化論を各 1 コマ開設している。

・専門科目

本学では第一期から、日本語とともに、数学，物理、化学に加え、学生が生物系に進学する可能性がある場合は生物も含めた理系科目を開設している。以前は、大学院生を講師に、大学入試レベルの問題演習を通して、入学後、日本語で実施される授業に十分ついて行けるだけの基本的な学力、授業を理解するのに最低限必要な日本語力を身につけさせるというものであったが、23 年度からは、広島大学マスターズという広大を退職された先生方の団体に講師を依頼することになり、授業内容も従来からの問題演習中心のものではなく、大学入学後、教養教育で行われる授業の基本的な内容を先取りし、講義の形で行うものとなっている。

また、英語に関しては外国語教育センターの全学向け「英語研修プログラム」から自分にあったものを選び、一コマ受講するようになっている。

なお、本 25 年度における時間割、行事は次ページの通り。

時間割

	月	火	水	木	金
1					日本語会話 坂田
2		日本の社会・文化B 中矢		日本語中級B 尾形	日韓比較文化論 坂田
3	化学 平田	生物 渡辺、設楽、桝井	映像日本語 特別演習B 石原		日本語作文 坂田
4	日本語聴解 特別演習B 深見	日本語中級A 松村	物理 米倉(前半)，山下(後半)	日本語分析 特別演習B 中川	
5	英語(1コマ)	数学 水田	英語(1コマ)		

行事

	期間	行事等	見学（金曜）	備考
W0	10/1-10/5	1渡日		
W1	10/6-10/12	7日本語授業開始 8（午後)開講式 9専門授業開始	11全学オリエンテーション １６：２０～１７：５０　K102	
W2	10/13-10/19	14体育の日	広島見学（広島城・平和公園）	月なし
W3	10/20-10/26			
W4	10/27-11/2			
W5	11/3-11/9	3文化の日 4振替休日		月なし
W6	11/10-11/16			
W7	11/17-11/23	23勤労感謝の日		
W8	11/24-11/30		宮島見学	
W9	12/1-12/7			
W10	12/8-12/14			
W11	12/15-12/21			
		23天皇誕生日　冬休み（12/21-1/6)		
W12	1/5-1/11			
W13	1/12-1/18	13成人の日		月なし
W14	1/19-1/25			
W15	1/26-2/1	専門科目終了		
W16	2/2-2/8			
W17	2/9-2/11	11建国記念日	マツダ見学	
		春休み（2/11-　）		
	3月中下旬	修了式		

平成 25 年度留学生支援にかかる活動報告

中矢礼美

本年度の主な活動は、次の５点である。１）留学生修学相談、２）留学生オリエンテーション、３）学内留学生支援担当者との支援体制整備、４）留学生支援調査、5)Face to Face Project（国際教育活動）。活動の内容および今後の課題について、以下、列記していく。

１．留学生修学相談

留学生指導部門が改組によって廃止されてから 4 年目となり、以前かかわりのあった留学生の多くが帰国した。そのため口コミによる修学相談件数は徐々に減っていき、新たに相談に来る留学生は、国際センターの授業、新入留学生オリエンテーション時の情報、支援ネットワークポスターによって情報を得て来たり、指導教員からの勧めで来る学生も出てくるようになった。

本年度の相談件数は、延べ 48 回であった（電話のみ 2 回、メイルのみ８回を含む）。来室者は、13 人であった。相談の内容は、研究室のミスマッチ（指導教員の研究プロジェクトと合わないため自分のしたい研究テーマに同意が得られないなど）、指導教員や研究室の学生との人間関係問題、進学相談、研究内容についてのアドバイスであった。

相談件数には入れていないが、以前に相談に来ており、問題が改善された学生（指導教員のミスマッチの問題後、指導教員を変更した学生）が、時折、自発的に近況報告に来ており、その後経過が順調であることを確認できている。基本的な姿勢として、学生から相談がない限り、こちらからは連絡を取らないようにしているため、その後の経過が把握できないことも多い中で、このような報告は貴重である。今後はできるだけ事後経過報告をするように伝えていく必要があろう。

２．各種オリエンテーション

１）新渡日留学生オリエンテーション

来日直後に全学の新渡日留学生を対象として前期１回、後期は２回行った。留学生支援ネットワークのメンバーを中心にそれぞれの担当（修学、ビザ・宿舎、生活・交流、健康、ハラスメント、キャリアセンター、図書館など）について説明を行った。

日本語・英語会場と中国語会場に分けて行うなどの工夫は引き続き行った。

参加しなかった留学生は、広大 HP もみじにおける「留学生サポート」に掲載している

資料をダウンロードして読んでおくように、部局を通じて知らせた。

２）NOIE オリエンテーション

NOIE（国際交流ネットワーク）に登録している留学生で、学校での国際理解事業に参加したい学生に対してオリエンテーションを行った。東広島市教育委員会との連携で行っている小中学校における国際理解事業に参加してもらうにあたって、事前に市教育委員会の担当指導主事の方と打ち合わせを行った上で、国際理解教育を専門とする筆者が、日本における国際理解教育および活動の際の留意点について説明を行った。説明に参加した留学生は市教育委員会に伝え、優先的に参加する機会を与えることとしている。オリエンテーションには前期後期ともに参加者は 15 名程度であった。

３）学生チューターオリエンテーション

国際センター所属留学生の日本人学生チューターのオリエンテーションも実施し、留学生との良好な関係構築について、よくある事例をもとに考察・議論してもらうことを通して、基本的な態度を理解してもらった。

３．学内留学生支援担当者との支援体制整備

１）留学生支援ネットワーク連絡会

留学生センター時に存在していた留学生支援体制協議会を改め、留学生支援担当者連絡会を結成し､定期的に担当教職員が情報共有と留学生支援体制の拡充する活動行っている。本年度は連絡会を８回行った。議論の内容は、緊急時対応マニュアル作成、各種オリエンテーション内容、留学生支援調査票作成、多様な留学生相談事例報告と今後の対応についての相談などである。

２）広島大学全学留学生等支援部会

2013 年 7 月 4 日に広島大学全学留学生等支援部会の立ち上げとして第 1 回目を開催した。部会長は国際センター長、副部会長は国際センター教育部門中矢が務め、全部局から留学生支援担当の教職員および留学生支援ネットワークの教職員が構成員である。

第１回目の議題は、留学生支援担当緊急連絡表およびチャートであり、責任の所在、活動のフローチャートについて活発な意見が交わされた。第 2 回目は、第１回部会での議論を受けて、緊急時対応のチャートを作成しなおした上で、FD としてケースを想定してフローを追い、課題点や注意点を議論した。第３回目は、改良した緊急時対応チャートの報告、活用の呼びかけ、および多言語通訳者の確保の依頼を行った。また、チューター制度

を廃止し、新しい制度を作ろうという学長提案についての意見交換を行い、その結果は国際グループから学長に伝えられた。各部局によってもチューター制度廃止の議論は会議で行われており、ネガティブな反響は大きい。部会の効力がいまひとつ未確定であり、部会の議事録および提言などを確実に国際センター長から学長に伝えていく必要がある。

第２回支援部会兼 FD の資料は、支援ネットワークメンバーで以下のように作成した。

平成 25 年度第 2 回広島大学全学留学生等支援部会

外国人留学生の緊急時対応についてのグループディスカッション

１．下記ケースごとに、緊急対応マニュアルと対応例を参照しつつ、グループで対応のシミュレーションを行ってください。

２．その際に起こりうるケースに特有の課題とその対応案について話し合ってください。

ケース１：留学生が事件・事故により死亡した場合 警察から「本学の留学生（インドネシア人）が事故により死亡した」という連絡が大学に入った。（宗教はイスラム教だと考えられる）

ケース２：留学生の重大な事件・事故の場合 病院から「来日１カ月の中国人留学生（言語能力が乏しい）と日本人学生が自転車同士の事故を起した。留学生には、緊急な手術が必要」という連絡が大学に

４．留学生支援調査

別章にて、概要を報告する。以下は、支援調査結果を下に学長ならびに部会長会議に向けて提出した提言である（文責　中矢）

2013 年度留学生支援調査結果報告ならびに改善に向けての提言

国際センター長　　坂越　正樹
国際センター　准教授　中矢礼美

本提言は、平成 25 年 12 月に実施した本学の留学生対象のアンケート調査「広島大学留学生の学習と生活に対する支援調査」（別資料）の結果を踏まえ、3 点にまとめている。本調査は、留学生支援ネットワークのメンバーによって作成し、調査票は、全留学生 1,111 名に配布した。回収数は 567、回収率は 51.0%と 2003 年以降の調査の中で最も高い比率となっている。

提言１　留学生と指導教員・研究室のマッチングのプロセスを適正化するシステムを確立する（例 : 事前の複数回相談、チェックリスト作成・活用、専攻ごとの受け入れ協議など）
提言根拠 : 大学入学前の指導教員との相談について、「決まっていなかったので、相談していない」という回答が 94 名存在し、「受け入れ願いと書類を送った後は、何も相談していない」という回答も 111 名と非常に多い（資料 p7. 3.2　複数回答）。
現状説明 : 研究室および指導教員とのミスマッチは、留学生からの就学相談の中で最も大きな問題となっており、その予防のためには事前の相談が不可欠である。留学生は、受け入れ願いと研究計画書を提出し、受け入れが認められた時点で、指導教員は全面的に自分の研究計画を受け入れてくれていると考える。その一方で、指導教員側は、具体的な研究計画や研究室活動（共同研究や研究室方針）は「来てからの話し」と考えている場合がある。相互不理解が入学時から始まっている可能性が高く、受け入れ前の複数回の相談（確認）が必要。

提言２　英語による授業・資料、実験器具などの英語版マニュアル、日本語学習希望者へのフォロー
提言根拠 : 留学生が大学を選んだ理由は、口コミの影響は 126 人と多く（p.6, 3.1）、在籍留学生の満足度をあげることが次の学生の受け入れに直結することが分かる。しかし、満足度を図る指標の中で「授業の内容は分かりやすい」かの回答は、3.76（5 段階評価の平均値）と最も低い数値となっている（資料 p11.）。その理由として考えられる語学力について、日本語での講義・授業の理解について「全くできない」は 24%、「あまりできない」は 9.9%と、3 割以上の留学生が言語問題で授業が理解できていない（資料 p 4.,2.1）。国際センターによる日本語授業を受講したいが、受講できない理由として 186 人がスケジュールが合わないと回答しており（p.6,2.7）、フォローが必要である。また、実験器具などのマニュアルが日本語のみであるため、研究に支障がある問題が挙げられている。（資料 p .12, 自由記述）

提言３　大学 HP における情報の整理と英語版情報の充実
提言根拠 : 指導教員を知ったのはホームページであると回答する留学生は 209 人(p6, 3.1) であり、ミスマッチを防ぐためにも研究者総覧の英語版が必須。また、現在困っていることは、経済（220 人）に次いで、学習や研究のことが 213 人、ことばや習慣が 210 人と多い(p.8, 4.1)。しかし、学生相談窓口を知らないとする留学生も依然多く(p.8, 4.3)、サポート体制の周知徹底、支援情報の整理が必要。また日本語の教科書レベルを読めない学生は 35.3%（p. 4 , 2.1）おり、大学 HP の英語版の充実が必須である。「広島大学 HP から必要な情報収集しやすい」という質問では、3.83（5 段階評価での平均値）と芳しくない（p.11）。

５．Face to Face Project

本年度は、６回の Face to Face Project を開催した。昨年度と同様に、授業の一環として実施する形式で実施した。留学生は、日本人学生と様々な日本社会の現象や特異だと思われる文化についてじっくり話し合える機会として非常に有効であったと評価している。また、日本人学生側からも留学生の国の社会情勢についての考え方や文化背景を直接体験から聞くことができて、有効であったと感想をよせてくれた。

毎回８名程度の日本人が参加してくれた。できれば留学生１人対して１人の日本人が集まるよう、今後も広報の改善を図っていく必要がある。

平成 25 年度
広島大学留学生の学習と生活に対する支援調査結果概要報告

中矢礼美

はじめに

本報告は、平成 25 年 12 月に実施した本学の留学生対象のアンケート調査「広島大学留学生の学習と生活に対する支援調査」の結果を集約・分析したものである。

広島大学には 1000 人以上の留学生が在籍しており、彼らが直面する生活・修学上の多様な課題を解決すべく、留学生支援ネットワークは毎月連絡会議を開催し、また各セメスターに一度は全学の留学生支援担当者会議を開催して、情報共有および支援体制の構築に努めている。そこで議論される内容は多岐にわたり、効果的効率的な留学生支援のためには状況把握が重要であるという共通認識のもと、昨年度に引き続き今年度も留学生に対する支援調査を実施することとなった。

本調査の内容および構成は、留学生支援ネットワークのメンバーによって作成され、調査票は国際センター国際交流グループより全留学生に配布された。

平成 25 年度の留学生支援ネットワークメンバーは以下のとおりである。

中矢　礼美	国際センター国際教育部門　准教授
横山　美栄子	ハラスメント相談室　教授
北仲　千里	ハラスメント相談室　准教授
岡本　百合	保健管理センター　准教授
小島　奈々恵	保健管理センター　研究員
田中　孝憲	キャリアセンター　主査
車地　友理	キャリアセンター
梅下　健一郎	国際センター国際交流部門　専門員
宮　秀貴	国際センター国際交流部門　主査
小倉　亜紗美	国際センター国際交流部門　研究員

Ⅰ．アンケートの調査方法と内容

アンケート調査票は広島大学に在籍する全留学生 1,111 人を対象とし、所属部局より直接あるいは指導教員を経由して配布した。回答は、学内便にて回収を行い、回収数は 567

であった。回収率は51.0%と2003年以降の調査の中で最も高い比率となった。

アンケート調査紙は日本語と英語を併記した。

アンケートは昨年とほぼ同じ項目を用いている。内容は５つに分かれており、１）一般的な質問、２）コミュニケーション言語および学習について、３）指導教員との関係について、４）留学生支援について、５）留学生による生活・修学に対する満足度について、である。

回答は、複数選択式、5点法のリカートスケール方式など、選択式を採用した。ただし、より具体的な意見を汲み取るために自由記述欄も設けた。

回答者は、質問によって異なっていること、一部の質問に回答していないなどの無効回答などもあるために、質問によって全回答者数に違いがある。

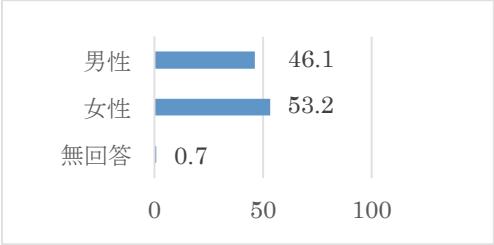
Ⅱ．統計分析の方法について

データはすべて統計的に処理されており、ここに掲載した検定結果は分散分析の結果である。多くの場合を理系と文系の研究科に所属する学生の間での違いとして分析を行っている。なお、ここでは留学生の自己判断により理系文系を区分している。

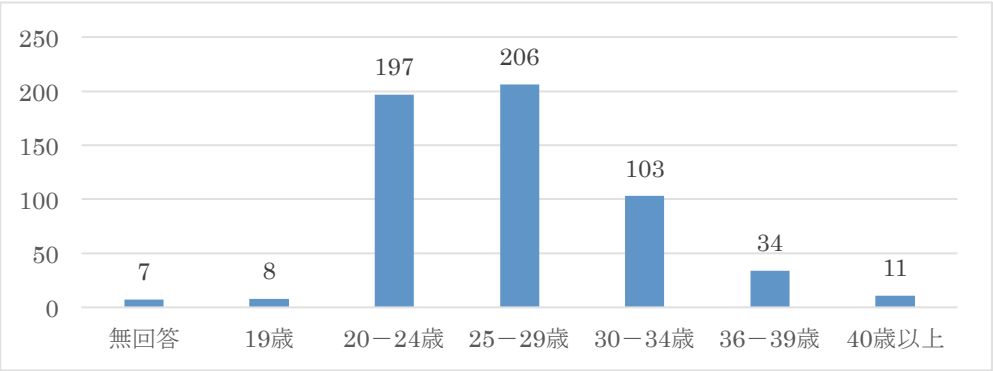
Ⅲ．アンケート調査結果の分析

１．一般的な質問

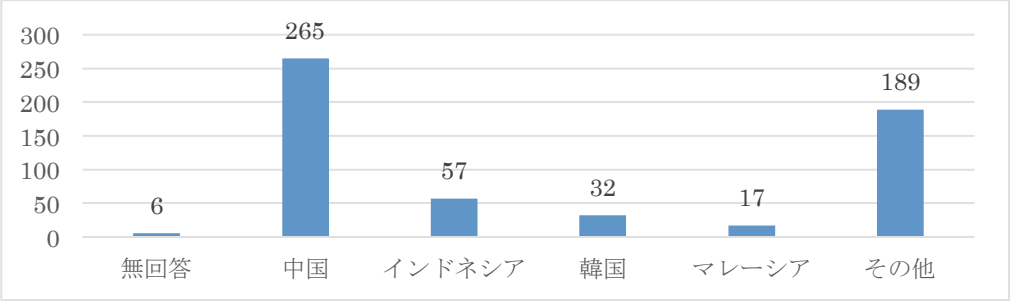
1.1　性別　（有効回答566）　（%）



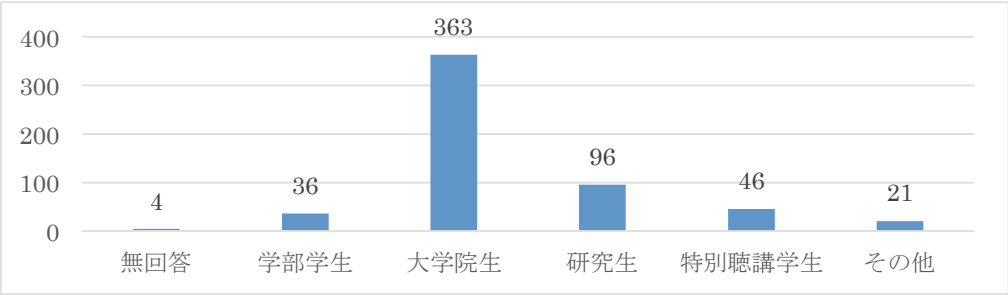
1.2　年齢　（有効回566）　（人）



1.3　出身国・地域　（有効回答 566）　（人）



1.4　学籍　（有効回答 566）　（人）

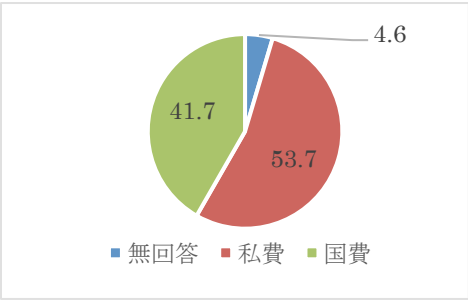


1.5　所属　（有効回答　566）

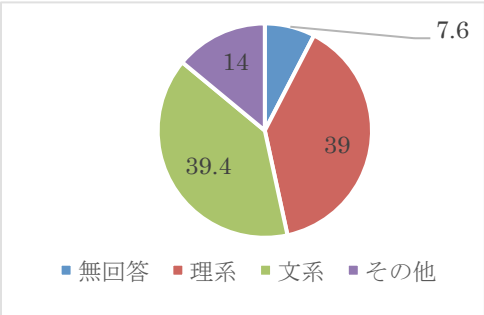
	回答者数	在籍者数	回答率
総合科学部	2	6	33.3
文学部	5	10	50.0
教育学部	37	38	97.3
法学部	3	5	60.0
経済学部	2	6	33.3
理学部	5	8	62.5
歯学部	6	16	37.5
薬学部	0	1	0.0
工学部	21	36	58.3
総合科学研究科	44	117	37.6
文学研究科	49	99	49.4
教育学研究科	46	140	32.8
社会科学研究科	50	103	48.5
理学研究科	13	27	48.1
先端物質科学研究科	6	24	25.0

保健学研究科・医歯薬学総合研究科	37	71	52.1
工学研究科	73	141	51.7
生物圏科学研究科	19	44	43.1
国際協力研究科	117	184	63.5
国際センター	25	33	75.5
高等教育研究開発センター	1	1	100.0
合計	561	1110	
システム欠損値	5		
全体	566	1110	51.0

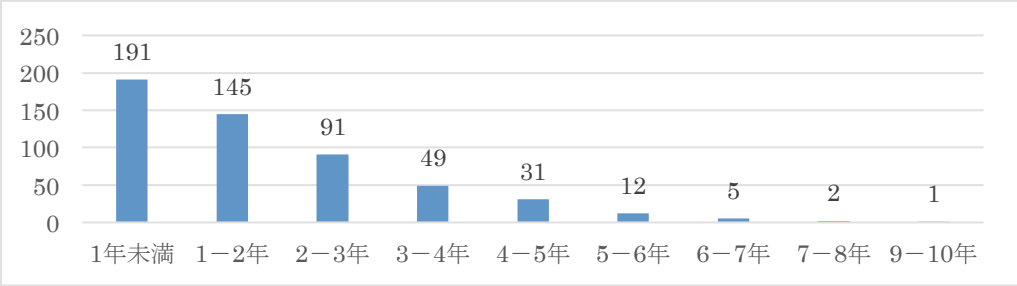
1.6　私費・国費　（有効回答 566）



1.7　専門　（有効回答　566）

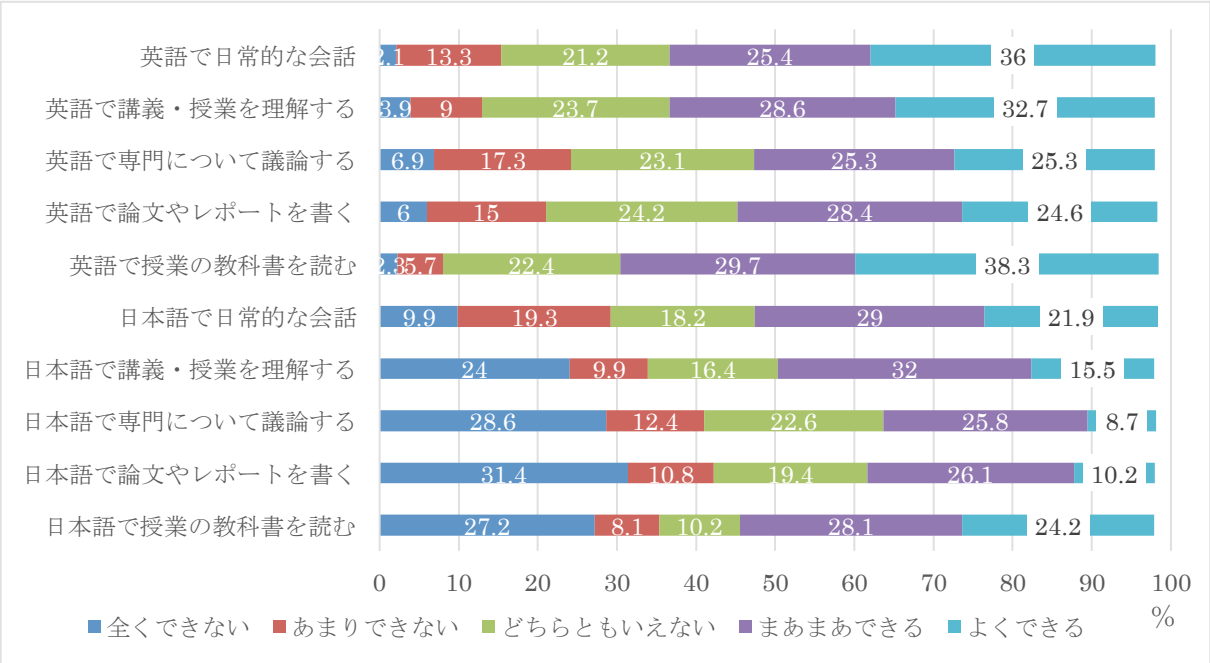


1.8　広島大学での在籍年数　（有効回答　566）



2．コミュニケーション言語と学習について

2.1　あなたの日本語と英語の能力はどのくらいですか？



分散分析の結果、すべての項目において理系・文系による有意な差（1%水準）が見られた。理系の学生に比べて文科系の学生はすべての側面において高い日本語能力を持ち、文系の学生に比べて理系の学生がすべての側面において高い英語能力を持つという結果が得られた。

＜理系・文系別の語学力＞

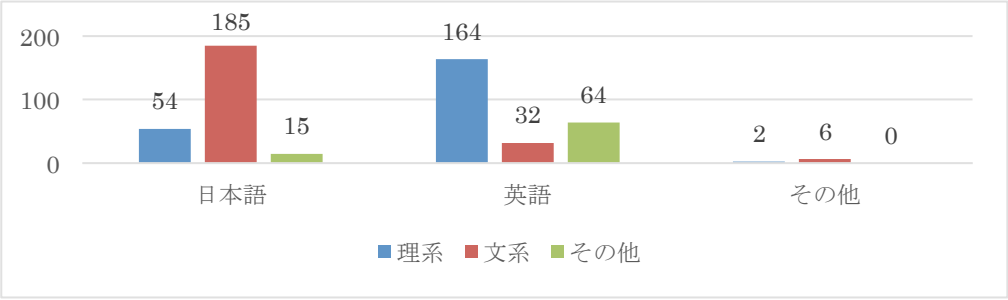
		n	mean	s
日本語で授業の教科書を読む	理系	218	2.63	1.561
	文系	221	4.09	1.092
	その他	77	2.25	1.434
	合計	516	3.2	1.566
日本語で論文やレポートを書く	理系	217	2.22	1.37
	文系	222	3.62	1.064
	その他	78	1.87	1.132
	合計	517	2.77	1.422
日本語で専門について議論する	理系	218	2.35	1.326
	文系	221	3.48	1.077
	その他	78	1.92	1.182

		n	mean	s
英語で授業の教科書を読む	理系	220	4.24	0.892
	文系	220	3.51	1.04
	その他	79	4.43	0.812
	合計	519	3.96	1.022
英語で論文やレポートを書く	理系	219	3.84	1.077
	文系	220	2.9	1.078
	その他	79	4.18	0.944
	合計	518	3.49	1.18
英語で専門について議論する	理系	219	3.79	1.162
	文系	218	2.83	1.12
	その他	79	4.09	0.99

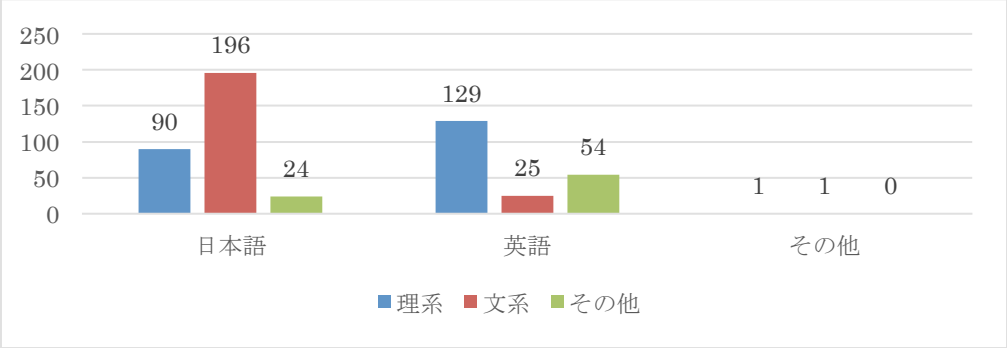
	合計	517	2.77	1.358
日本語で講義・授業を理解する	理系	217	2.57	1.393
	文系	221	3.9	1.051
	その他	78	2.29	1.32
	合計	516	3.1	1.428
日本語で日常的な会話	理系	218	2.94	1.278
	文系	222	4.03	1.017
	その他	78	2.73	1.234
	合計	518	3.38	1.297

	合計	516	3.43	1.233
英語で講義・授業を理解する	理系	219	4.05	1.003
	文系	218	3.27	1.079
	その他	79	4.32	0.899
	合計	516	3.76	1.108
英語で日常的な会話	理系	219	4.06	1.111
	文系	219	3.33	1.05
	その他	79	4.28	0.919
	合計	517	3.79	1.129

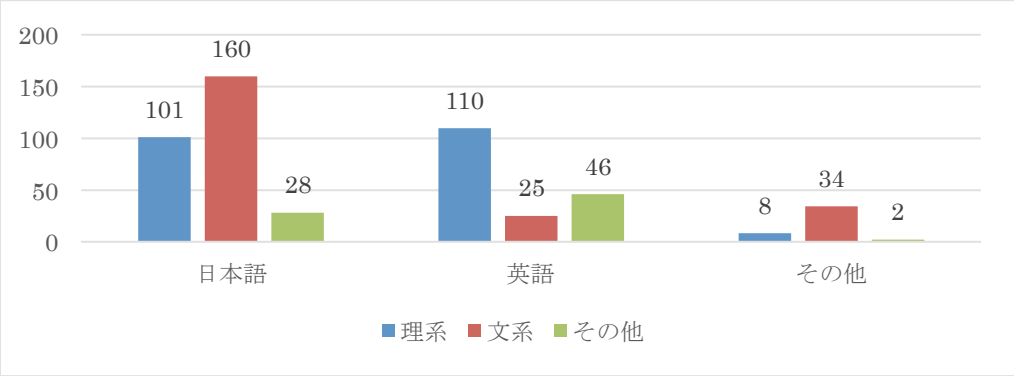
2.3　あなたは、論文の読み書きでおもにどの言語を使いますか？（回答数 522）



2.4　あなたは、指導教員との会話でおもにどの言語を使いますか？（回答数 520）

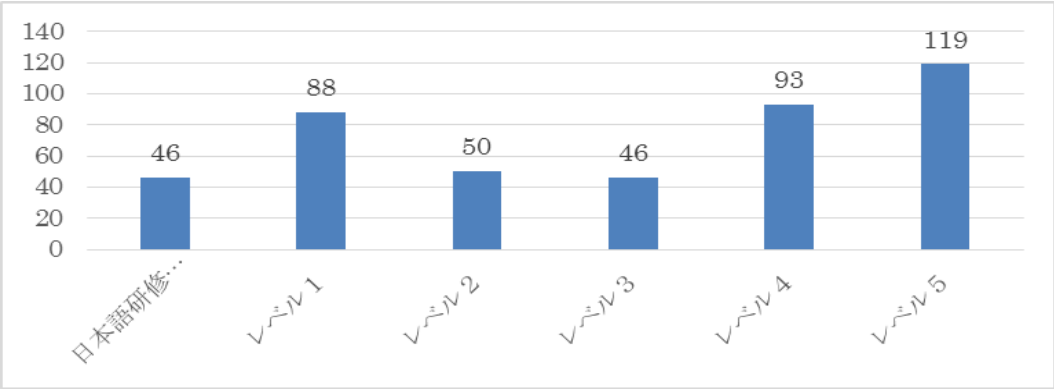


2.5　あなたは、研究室の人たちとの会話でおもにどの言語を使いますか？（回答数 514）

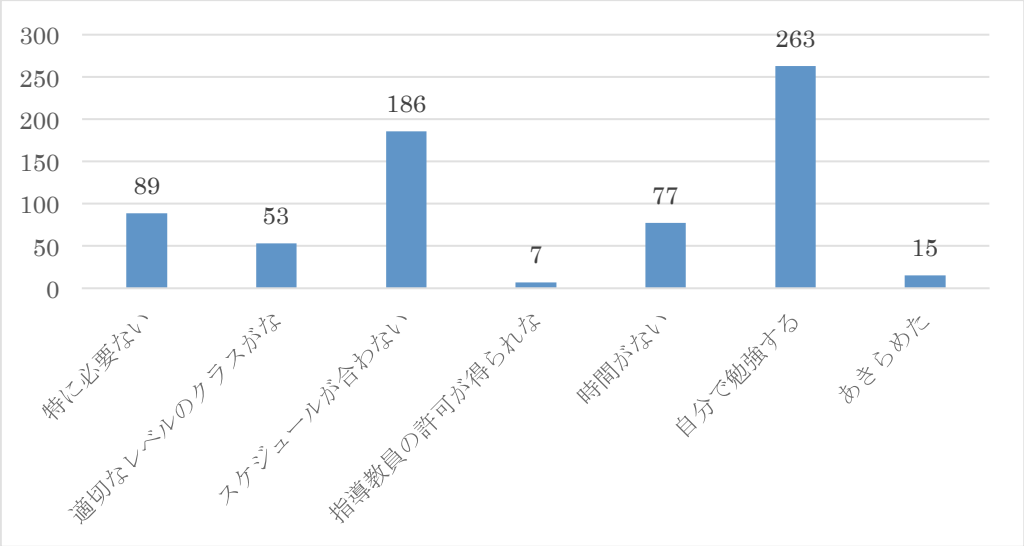


2.3～2.5 に示したように、理系の学生の方は文系の学生よりも論文の読み書きは圧倒的に英語を使っているが、指導教員との会話では日本語を使う割合が多くなっている。また、研究室の人との会話ではさらに日本語を使う人が多いことが分かる。「研究室の人との会話」において「その他」の言語と回答しているケースが多いのは、同国出身者との会話によると考えられる。

2.6　あなたが広島大学で今まで参加した国際センターの日本語コースを教えてください。（複数回答）



2.7　あなたの日本語の勉強についてどの意見があてはまりますか？（複数回答）　（人）

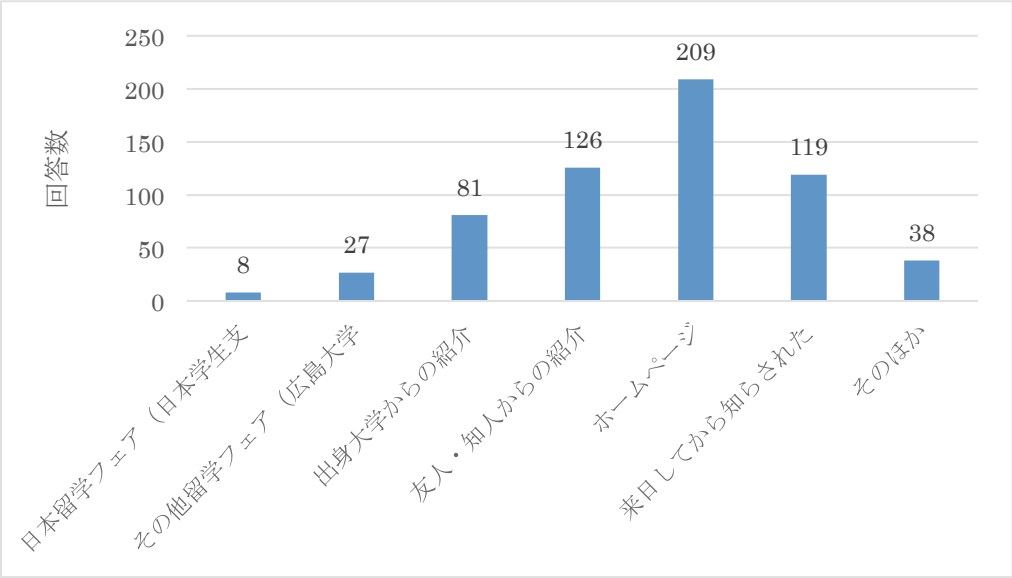


「スケジュールが合わない」学生が 186 名、必要性を感じながらも「時間がない」学生が 77 名存在する。「自分で勉強する」と回答した 263 名の中にこの人数が含まれている。日本語能力が低いにも関わらず、研究室や指導教員との会話は日本語を使用していたり、生活のための必要性からも、日本語・日本文化学習機会の保障がますます重要となる。国際

センター国際教育部門では、独自開発のプレイスメントテストを学期始めに受験させ、そのレベル（1―5）に合わせて日本語・日本文化の授業を受講できるようにしているが、受講者の年間スケジュールや弱点に合わせて、柔軟に短期で文字の学習クラスを開講するなどの試みが行われている。日本語学習を許可しない教員も 7 名存在しており、研究室でも留学生の状況に合わせて柔軟な対応が求められる。

３．あなたと指導教員との関係について

3.1 あなたは、指導教員のことをどのようにして知りましたか。　（複数回答）



3.2　あなたは来日前に指導教員とどのような相談をしましたか？（複数回答）　（人）

	指導教員未決定で相談なし	書類送付のみで相談なし	研究計画複数回相談	研究活動複数回相談
大学院生	57	83	185	64
研究生	9	17	48	18
特別聴講学生	8	9	4	1
その他	3	2	4	0
全体	94	111	242	85

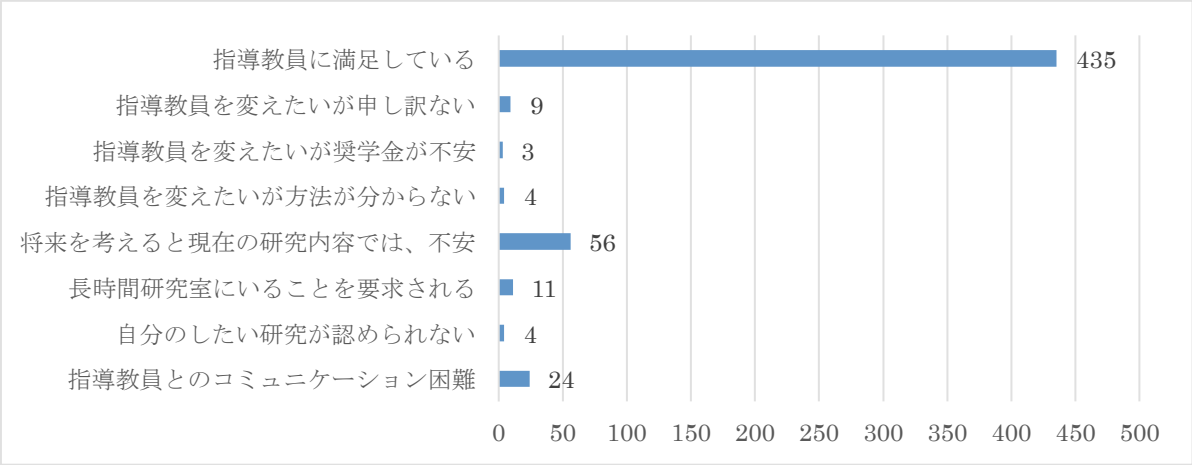
依然として、「指導教員が決まっていなかったので、相談していない」という回答は、事前相談のない全体で 94 名、「受け入れ願いと書類を送った後は、何も相談していない」という回答も 111　名と非常に多い。事前相談の必要がない学部生は含んでいない。

研究室および指導教員とのミスマッチは、留学生にとって最も大きな問題であり、予防のためには事前の相談が不可欠である。受け入れ願いと研究計画書などの提出を受け入れ

られた時点で留学生は、指導教員が全面的に自分の研究計画を受け入れてくれていると思う一方で、指導教員側は、「来てからの話し」と考えていることもある。相互不理解が入学時から始まっている可能性が高い。受け入れ前の複数回の相談（確認）を実施すべきである。

3.3 指導教員との関係において、次のうちどれがあなたにあてはまりますか？（複数回答）

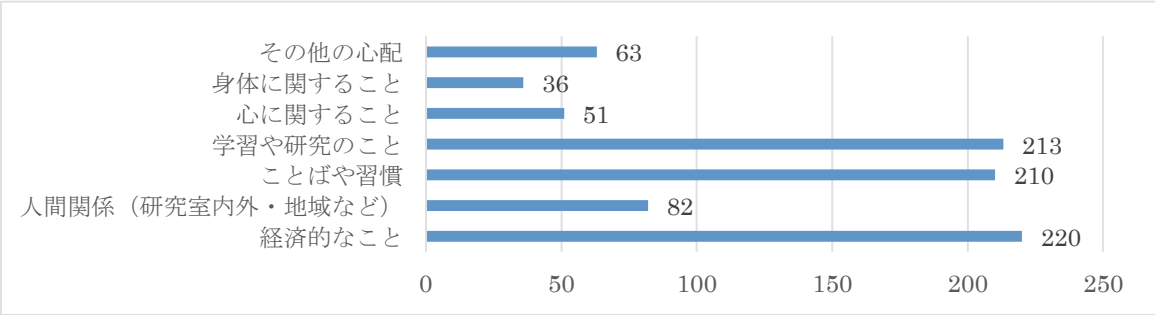
（人）



概ね指導教員に満足しているようであるが、「将来を考えると現在の研究内容では、不安」という回答者が 56 人と多い。指導教員を変えたいものの「申し訳ない」「奨学金が不安」「方法が分からない」という留学生も存在している。自由記述で述べられているように、深刻な問題である場合もあり、各相談窓口での対応が求められる。

Ⅳ. 学生支援について

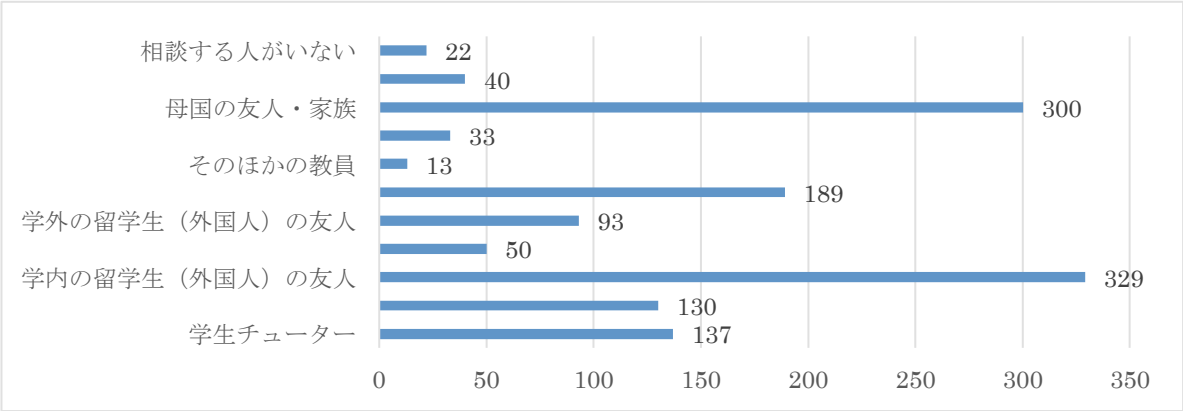
4.1 学生生活の中で困っていることがありますか。（複数回答可）　（人）



「経済的な悩み」が 220 人と非常に多く、ついで「学習や研究のこと」213 人、「ことばや習慣」の悩みが 210 人と非常に多い。

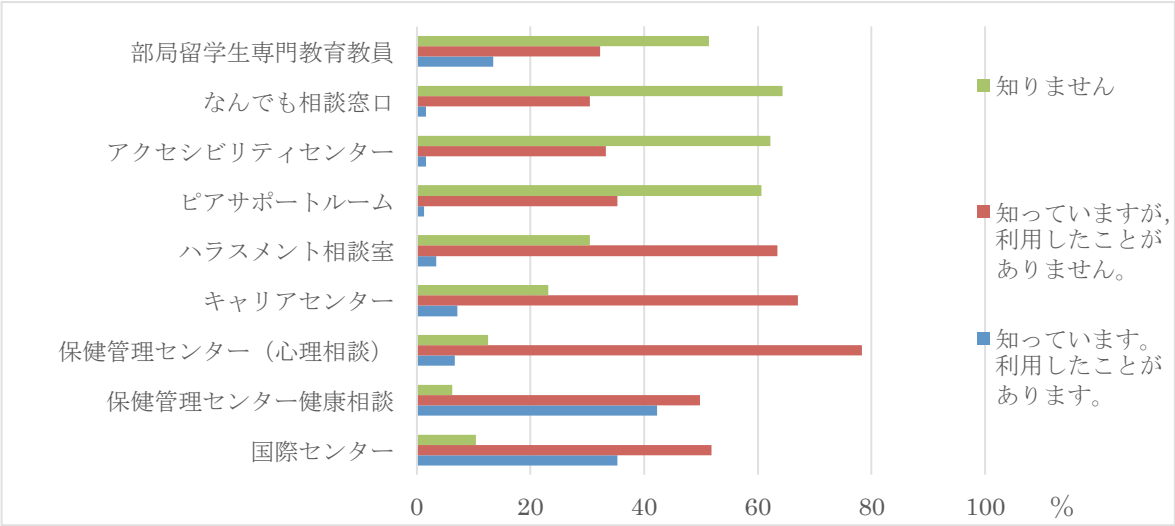
4.2 困ったことがあるときには，おもに誰に相談しますか。（複数回答）

（人）



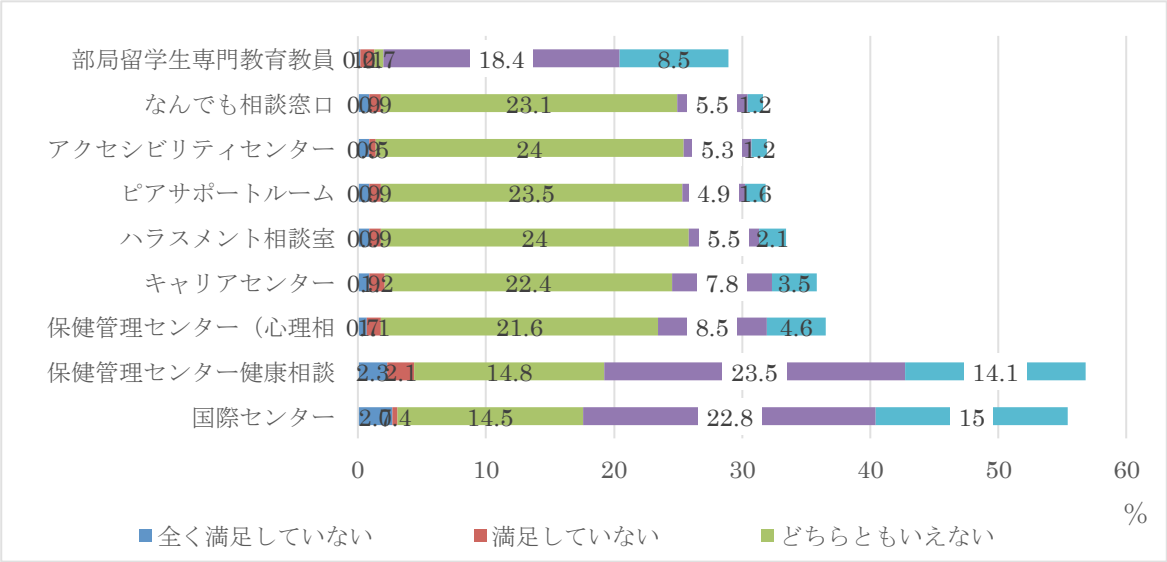
「相談する人がいない」と回答する留学生が 22 人存在することは、問題である。悩みの相談相手は母国の友人・家族、学内の留学生およびが非常に多い。ついで指導教員も 193 人と多い。日本人学生の友人よりも学生チューターと回答する留学生も 137 人と多く、その重要性が理解できる。

4.3 学生生活支援のための次の相談窓口があることを知っていますか？
相談したことがありますか？

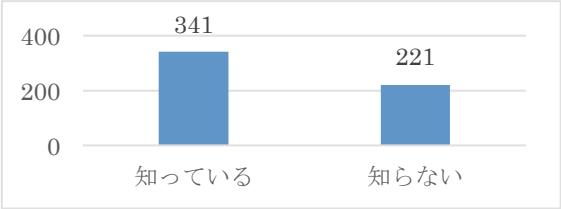


ピアサポートルーム、アクセシビリティセンター、なんでも相談窓口の認知度は非常に低い。部局留学生専門教育教員についても、認知度が低いが、配置されていない部局があることも影響している。有意義な留学生生活、問題の予防や早期解決のためには、留学生支援窓口の周知徹底を図る必要がある。

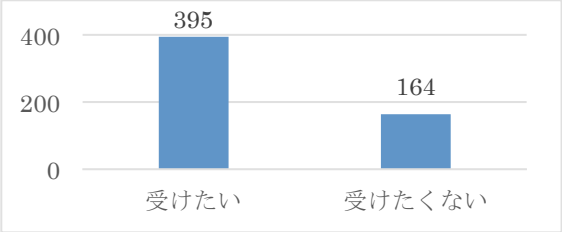
4.4 下記の窓口を利用したことがある方にお尋ねします。下記の窓口での支援に満足しましたか？



4.5 保健管理センターで、留学生のためのカウンセリング（英語と日本語で対応）を行っていることを知っていますか。（人）

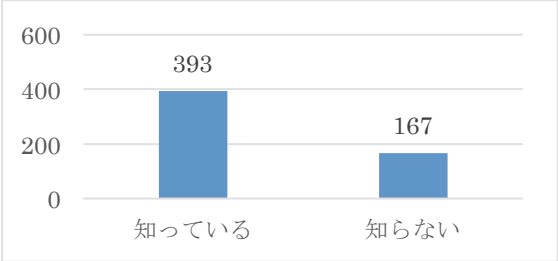


4.6 悩みごとがあったとき、カウンセリングを受けようと思いますか。（人）

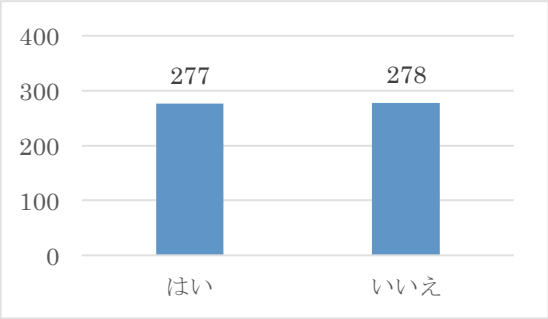


（4.7 は、自由記述のため省略）

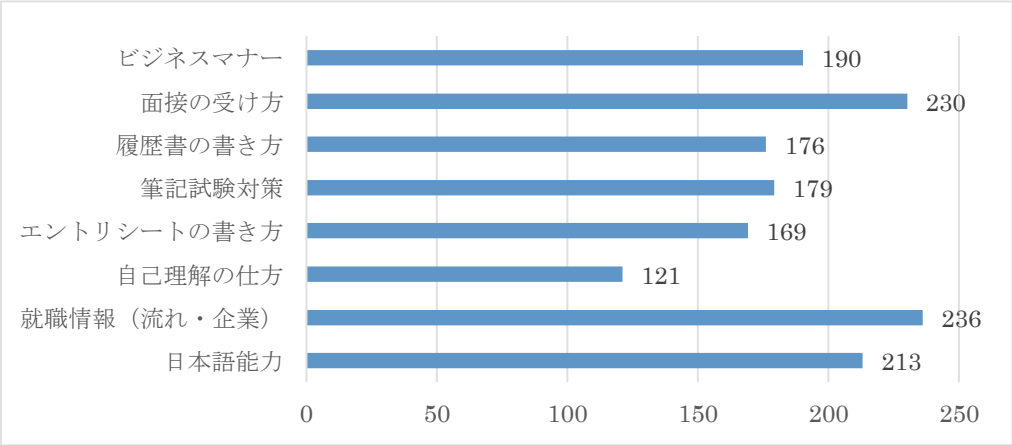
4.8 学年度内（4 月～3 月）に健康診断を受けていなければ、健康診断証明書が発行されないことを知っていますか。（人）



4.9　あなたは日本の企業への就職を希望していますか。　（人）

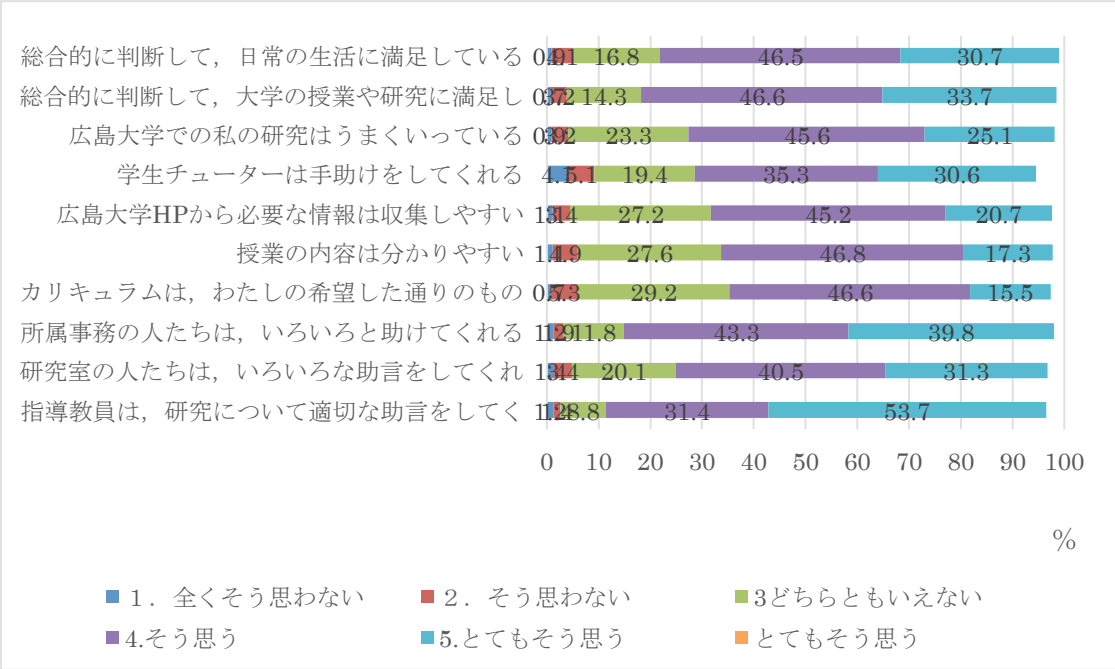


4.10「はい」と回答した方は、就職活動のサポートで必要なことは何ですか。（複数回答）



５．広島大学における学習・生活に関する満足度

広島大学に関する以下の内容について、あてはまる回答の数字に〇をしてください。



満足度について「全くそう思う」（1 点）から「とてもそう思う」（5 点）で平均値を求めたところ、下記のように指導教員については最も満足が高く、カリキュラムと授業の満足度は低めである。

＜自由記述＞

＊自由記述について

74 名が回答。プライベートで個人が特定される内容や教員を名指しするものを省き、内容が重複するものは選抜して掲載。

主な内容を以下にまとめる。

・奨学金や授業料免除が少ない不満、合否基準の不透明さについて
・２４時間利用可能な研究室
・実験器具の取扱説明書が日本語のみ
・IDEC 前の道の危なさ
・東千田キャンパスの施設の不十分さ
・国際的なカリキュラム、英語での授業や指導の必要性
・学生への指導不足、過度なプレッシャー、教員の手伝いのために自分の勉強時間不足
・HP 上の情報がバラバラ
・事務からのメイルは日本語
・チューターは必要
・英語ができないチューターは困る

（奨学金、授業料、アルバイト、就職など）について

- I think the money of scholarship is not enough to maintain daily life because now-a-days all daily usable things are expensive than before in Japan.
- I am a private and I have spent all the time to do my research. So I have not any part time job. For this reason, it is better if our university can provide more opportunity to get the economic support.
- 授業料の免除については、ちょっと理解できないことがあります。その結果を見ると、自分自身はすこし迷っていたことです。その免除の判断の基準は何ですか？

研究環境（研究室、図書館など）

- 中国で研究したり、勉強したりする 24 時間のフリー室がある。控え室が狭くて勉強しない人もいるし、そのような 24 時間の室が欲しいんです。
- 研究室にある教育棟には，よる 9 時に閉まることになっており、図書館や自販機に行くのがすごく大変不便です。時間がかかるし、なんとかしてくだされば すごく助かります。
- 研究室には参考できる書籍などあまりも少ないです。
- 研究室には中国人留学生がほとんどで、日本語によるコミュニケーションが少ないです。
- Almost all the machines at the school are provided with Japanese language, which is serious

hurdle for international students who can't read Japanese language. In this way students pursuing their education in science are suffering a lot and are compromising on quality of their education. The other thing is when they encounter a machine related problem then there is no one to help them to get rid of it. I will suggest at least these many be a technician for main machines present in Hiroshima University, and could help the students to fix problem.

- My Japanese language is not good. However, my study does not need Japanese language so much. Having said that, my research equipment and software that I need to used are all in Japanese. I am from engineering department. I wish there is translation for all the laboratory equipment software.

大学環境

- 食堂が少ない。いつもこんでいるから。コンビニも少ない。
- I feel unsafe when I cross the road at the intersection in front of IDEC. I think that it will be better if there are some signs for making notice to the drivers on speed reducing steps at the cross road.
- 東千田キャンパスに所属しています。大学の施設、図書館、体育館、食堂、寮などの理由は他のキャンパスより少ないです。これは公平ではないと思います。本部キャンパス以外の留学生対して、授業料入学料の減免と奨学金の推薦などを優先に考えていらっしゃいますでしょうか？

修学（指導教員、授業）

- HU needs to internationalize programs and curriculum to compete with other global university. English-speaking professors and proofreaders for graduate students master's thesis/dissertation are very needed.
- I had a bitter time in finding the right research title. I wasted a lot of time on it. My comment is supervisor must pay much attention in helping students to find the right research title at the beginning of their study.
- International students should spend more time for learning Japanese in order to understand some Japanese classes, lectures conferrence… There should be more English lectures for international students.
- I would like the supervisor to provide good learning environment for the students; it means that supervisors should not put a lot of pressure on the students to do things and finish in a short time. Students' lives should be balanced between academic life and daily life. They should enjoy life and study together. If supervisor put a lot of work to do, they will be stressed and cannot study well.

国際交流

- Hiroshima University should arrange trip or tour for international student to visit and learn more about Japanese culture and society.

各種情報

- 奨学金について調べたいのですが、情報がバラバラに掲示されている気がします。もみじとかにも、もっと見やすいように掲示されたらいいなと思います。
- Sometimes I receive e-mail from my faculty only in Japanese. At a time like that I have to get the help of Japanese friend in my lab for translation. It is better to develop a system to send all e-mails for foreign students both in Japanese and English so that it is easy to understand the content of the e-mail without any other's support.

学生チューター

- The Japanese student tutor is very important and helpful for International students because we didn't understand everything in Japan culture and Japan official documents.
- I have heard the tutor programs for foreign students is going to stop. I am so sorry for hearing that news. Japanese tutors are really helpful and necessary.
- Because my student tutor does not speak English I find it difficult to consult her when I need assistance, and after have to bother Japanese friends to help me for important documents, or other such questions.

留学生満足度の平均値経年比較

	2009	2010	2012	2013
指導教員は、研究について適切な助言をしてくれる	4.47	4.39	4.46	4.4
研究室の人たちは、いろいろな助言をしてくれる	4.1	3.98	4.07	4
所属事務の人たちは、いろいろと助けてくれる	4.2	4.19	4.27	4.21
カリキュラムは、わたしの希望した通りのものである	3.9	3.69	3.8	3.73
授業の内容は分かりやすい	3.71	3.61	3.66	3.76
広島大学 HP から必要な情報は収集しやすい	3.82	3.79	3.82	3.83
学生チューターは手助けをしてくれる	3.93	3.79	3.86	3.88
広島大学での私の研究はうまくいっている	3.94	3.88	3.91	3.93
総合的に判断して、大学の授業や研究に満足している	4.13	4	4.13	4.11
総合的に判断して、日常の生活に満足している	3.93	3.86	4.02	4.03

広島大学短期交換留学(HUSA)プログラム活動報告

堀田泰司・恒松直美

沿革

1993 年に日米文化教育交流会議(The United States - Japan Conference on Cultural and Educational Interchange： 通称カルコン CULCON)が開催され日米間の学生交流の促進が謳われ、政府支援の下、1995 - 96 年に 8 国立大学が短期学生交流プログラムを開始した。広島大学短期交換留学プログラム（Hiroshima University Study Abroad Program, 以下 HUSA プログラム）は、その 8 国立大学の 1 つとして、1996 年に開始され、これまで積極的に学生交流を促進してきた。よって、当初の本学の短期交換留学プログラムの目的は、米国の高等教育機関との交流を中心とするものであった。しかし、プログラムは徐々に拡大し、現在は、世界中に点在する協定大学 63 大学及び 2 コンソーシアム（University Studies Abroad Consortium, USAC 及びUniversity Mobility in Asia and the Pacific, UMAP, アジア太平洋大学交流機構）と交流を行っており、交換留学生受入れ・派遣留学を通して学生に異文化を体験させるだけでなく、留学しない本学のキャンパスで学習する学生に対しても異文化交流の機会を提供し、より多くの学生に国際教育の場を提供している。

教育内容としては、世界中の留学生が本学で学べるように英語による特別科目を開講し、より質の高い教育を提供するよう努力している。近年では、留学生に対し、新しく学生主導型で進める「グローバル化支援インターンシップ」を開講し、地域と協力して地域社会がグローバル社会に対応するための地域活性化プロジェクトにも取り組んでいる。また、海外へ留学を希望する本学の在籍学生に対しては、説明会、留学フェア、文化交流会等の開催に加え、本学が積極的に参加している大学間コンソーシアムの INU(International Network of Universities)を活用し、アメリカとオーストラリアの教授によるオンライン・ビデオ講義を駆使した国際教養科目を開講し、本学の派遣留学予備軍の養成を目指している。

さらに、2000 年より、コンソーシアム型学生交流の促進を目指し UMAP (University Mobility in Asia and Pacific)事業に参加し、留学した学生の単位互換をより公平、且つ正確に行うため UMAP が開発した UCTS（UMAP 単位互換方式、UMAP Credit Transfer Scheme）を採用し、全協定大学に対する本学の教育プログラムの透明性と互換性を高めている。現在は、UMAP が新たに開発した USCO (UMAP Student Connection Online)事業にも積極的に参加し、アジア・太平洋諸国の学生交流促進に貢献している。

運営組織としては、HUSA プログラム開始当初から全学組織である短期留学交流プログラム部会が全体を統括し、交換留学生の選考、協定大学との調整・交渉、英語による国際教育プログラムの拡充等について検討している。部会は各部局代表委員並びにその他委員により構成されている。また、プログラムを直接、管理運営する組織としては、国際センターの国際教育部門の教員 2 名及び留学交流担当の職員がその主たる業務を担っている。

Ⅰ．受け入れプログラムの概要

- 受け入れ期間：一学期または一学年
- 募集人員：約 40 名
- 募集方法：学生交流協定を締結している（締結する）各国の大学に対し募集要項を配布し、公募する
- 応募資格：
  （1） 本学との間に学生交流協定を締結している大学の学生または学生交流について双方が合意した書簡がある大学の学生
  （2） 原則として自国の大学の正規課程３年次の学部学生（協定校によっては、大学院生も含む）
  （3） 学業成績が優秀で日本留学に熱意を持つ者
  （4） 非英語圏から応募する学生にあっては英語又は日本語による授業を履修できるのに必要な英語力を持つ者
- 選考方法：短期留学交流プログラム部会において、協定大学の推薦・UMAP 学習計画書・プログラム参加目的を参考にし、書類選考を行う。
- 学生の身分と受け入れ方法：学生は、国際センターで統括し、学部生は「特別聴講学生」、院生は「特別研究学生」又は「特別聴講学生」（広島大学学生交流規定）として受け入れる。
- 授業料等の不徴収：交流協定に基づき、特別聴講学生として受け入れるので、授業料等を徴収しない（なお授業料については、協定において「相互不徴収」について合意する必要がある）。
- カリキュラム：授業科目は、3 つの形態から構成されている。「特設科目」(Special Course)は、HUSA プログラムの留学生のために特別に開設された主に英語による授業であり、「常設科目」(Integrated Course)は、既に学部で開設されていたものに、HUSA プログラムの学生が登録した場合、英語による支援を行う授業、または日本人学生向けに易しい英語で授業を行うものであり、日本人学生と共に履修する。第 3 に「日本語関係科目」は主に教育学部が開設し、国際センターが実施してい

る日本語（初級・中級・上級）及び日本事情の科目である。さらに、日本語レベルが上級の学生は、各学部で正規学生用に開設されている授業を受講することができる。授業科目は各学部が開設しているものであり、その統括は各学部でおこなわれている。以下が、2013-2014 年度に開設された授業科目一覧表である。

2013-2014 度（2013 年 10 月～2014 年 7 月）授業科目一覧

2013 度秋学期

１．特設科目【Special Course】

授業科目名	単位数	備考
Japanese Society and Lifestyles	2 単位	総合科学部
Family Life in Japan	2 単位	教育学部
Japanese Economy	2 単位	経済学部
Introduction to Environmental Chemistry	2 単位	工学部
Introduction to food science	2 単位	生物生産学部
The Japanese Culture and Education	2 単位	教育学部
Japanese Society and Gender Issues	2 単位	教育学部
Globalization Support Internship Ⅰ: Career Theory and Practice	2 単位	教育学部
Globalization Support Internship Ⅱ: Practicum	2 単位	教育学部

*通年開講

２．常設科目【Integrated Course】

授業科目名	単位数	備考
Introduction to the Theory of Inter-Cultural Communication	2 単位	総合科学部
Seminar in English Debate	2 単位	総合科学部
Introduction to Phonetics and Phonology	2 単位	総合科学部
Studies of Second Language Acquisition	2 単位	総合科学部
Algebra B	2 単位	理学部
Laboratory in Physical Science B	3 単位	理学部
Oral and Dental Science: Dietary Life and General Health	2 単位	教養教育
Marine Food Chain Dynamics	2 単位	生物生産学部

2014 度春学期

１．特設科目【Special Course】

授業科目名	単位数	備考

Japanese Society and Lifestyles A	2 単位	総合科学部
Study on International Issues and Challenges	3 単位	教育学部
Study on Japanese Companies & Organizations	2 単位	教育学部
The Independent Study on Japanese Companies & Organizations	1 単位	教育学部
The Japanese Culture and Peace	2 単位	教育学部
The Independent Study Japanese Culture and Peace	1 単位	教育学部
Cross-Cultural Studies on Education	2 単位	教育学部
Japanese Art and Global Education	2 単位	教育学部
Legal System and Japanese Society	2 単位	法学部
Politics and Foreign Relations of Japan	2 単位	法学部
Business Economics	2 単位	経済学部
Modern Chemistry	2 単位	理学部
Recent Developments in Biological Sciences	2 単位	理学部
Introduction to Applied Molecular and Cellular Biology	2 単位	生物生産学部

２．常設科目【Integrated Course】

授業科目名	単位数	備考
CMOS Logic Circuit Design	2 単位	工学部
Comparative and Contrastive Study of Language	2 単位	教育学部
English Grammar	2 単位	文学部
Introduction to Linguistics	2 単位	総合科学部
Experimental Psycholinguistics	2 単位	総合科学部
Structure of the Human Body (3. Human development)	0 単位	医学部
International Cooperation in Medicine	2 単位	医学部
Earth Environmental Chemistry	2 単位	総合科学部
Marine Food Chain Dynamics	1 単位	生物生産学部
Environmental Management Technology	2 単位	IDEC
Asian Cultures	2 単位	IDEC
INU Collaborated Special Lecture	2 単位	教養教育

日本語・日本事情関係科目

授業科目名	単位数	開講学期	備考

日本語初級　IA	2 単位	秋学期	国際センター
日本語初級　IB	2 単位	秋学期	国際センター
日本語初級　IC	2 単位	秋学期	国際センター
日本語初級　ID	2 単位	秋学期	国際センター
日本語初級　IIA	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語初級　IIB	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語初級　IIC	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語中級　IA	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語中級　IB	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語中級　IC	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語中級　IIA	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語中級　IIB	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語中級　IIC	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語聴解特別演習　A	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語表現特別演習　A	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語古文特別演習　A	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語上級　B　（リスニング）	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語上級　B　（映画）	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語上級　B　（古典）	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語上級　B　（語彙）	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語上級　B　（表現）	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語上級　B　（分析）	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本社会・文化　A	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本社会と文化　B	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本の思想・哲学 A	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本思想と哲学　B	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本の地域・文化　A	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本の地域・文化　B	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本の映像文化史　A	2 単位	秋・春学期	国際センター

・受け入れ体制の整備：（1）日本における様々な体験学習の場を提供する。（2）学生宿舎（日本人・留学生混在型）を用意する。（3）日本人学生チューターを事前に配置し、受け入れ開始と同時に留学生を支援する。（4）日本語学習の補助として日本人学生の会話パ

ートナーを紹介する。（５）入国時身元保証人としては、各指導教官に依頼せず、機関保障（広島大学）とする。（６）本学が提供する教育の質を保証する活動の一環とし、成績証明書に UMAP の単位互換方式である UCTS を導入し、単位互換を促進する。

II. 2013-2014 年度 HUSA プログラム留学生受け入れ状況

2013-2014 年度は、30 名の留学生を受け入れた（2012 年度 28 名）。期間は、殆どの学生が 1 年間の滞在を希望しており、男女別で見ると 2013-2014 年度 HUSA プログラムに参加した学生数は、男子学生 16 名、女子学生 14 名であった。

III. 2013-2014 年度 HUSA プログラム受け入れに関する業務及び活動内容

◆ 申請と選考

2013 年度募集要項は、2013 年 1 月に各協定大学へ配布され、3 月末に各大学から参加希望者が推薦された。推薦された学生について、4 月に本学の選考委員会によって HUSA プログラム参加者が正式決定された。今年度も、受け入れ留学生の申請において、UMAP 学習計画書を申請書類の中に組み込み、選考や奨学金の推薦の参考資料とした。2004 年度の申請から、受け入れ留学生のオンライン登録システムを導入し、2013 年度も継続してオンライン登録を使用した。オンライン登録により、学生が直接インターネットから情報を入力し、受け入れ留学生のデータベースが作成できるようになった。システムも毎年整備し、より効率的な形でオンライン登録が可能となっている。HUSA 受け入れ留学生が増加していくことが予測される中、今後も学生のデータベース作成及び管理にオンライン登録を活用していきたい。

◆ 渡日前の情報の提供

渡日前のオリエンテーションと日本での生活の準備を兼ねて、広島大学及び留学生活に関する情報を網羅した英語版の「短期交換留学生用手引き(Information for New Students)」を改訂して各学生に送付した。また、ホームページで HUSA プログラム、広島大学、日本での生活について詳細な情報を提供するとともに、「よくある質問」を掲載し留学生がよく疑問に思う事項について説明した。学生の個人的な質問等には、電子メール等を活用し直接個々のケースに対応した。

◆ チューターオリエンテーション

日本人学生チューターに対し、今年度も事前に 2 回の説明会を行った。第 1 回目は、チューターとしての全般的な支援活動の内容について説明し、第 2 回目は、留学生が来日する直前に、渡日後 1 週間の事務手続き並びに寮へ入居するまでの具体的な支援

活動についてオリエンテーションを行った。

◆ **見学・体験学習**

2013 年 4 月には、「グローバル化支援インターンシップ」を受講する留学生インターンが、担当教員の指導のもと「江田島国際交流歴史ツアー」を企画し実行した。江田島の歴史を学ぶとともに、江田島市役所及び移住者との国際交流会議を開催し、江田島市への外国人移住の支援策を検討した。2013 年度秋学期も、例年のように 10 月に呉市吉浦秋大祭見学ツアーを行い日本文化体験学習の機会を提供した。日本の祭りの歴史を学ぶとともに来日直後の留学生同士及び地域の人々との国際交流の場ともなっている。

◆ **授業科目の開設状況**

短期プログラム用の開設科目は、毎年、各学部で審議され、今年度も、特設科目・常設科目・日本語教育が短期交換留学生のために開講された。日本語教育科目は、短期交換留学プログラム用の特設科目となっている。2003 年度から初級・中級を特設科目とし、上級の科目は研修生や正規留学生及び研究生と合同で受講することになり、幅広い充実した日本語カリキュラムが組まれている。

◆ **「グローバル化支援インターンシップ」**

2003 年度より春学期に「HUSA インターンシップ」コースを開設して以来、毎年インターンとして地域企業に 2 週間派遣してきた。2005 年度よりインターンシップ派遣前に事前研修を開始し、インターンシップの準備体制を充実させてきた。2010 年度前期より企業体験者を招聘して全学公開セミナーを開き、留学生が本学学生と共に国際的視野から将来を考える場を創出した。また、2010 年度後期からは社会体験者講話に基づいた PBL（課題発見解決型学習法）による留学生と本学学生の協同学習も導入し、学生がより自主的に学びを高め合い大学教育とグローバル社会をつなげられる場を作っている。地域との連携の中で大学の国際化を促進し、留学生のキャリア教育及び日本での就業体験をさらに充実させ、ホリスティックに短期交換留学生の教育を充実化させていくことを目指している。

2012 年度秋学期からは、「グローバル化インターンシップ I：キャリア理論と実践」・「グローバル化支援インターンシップ II：実習」と題して新しく「学生主導型」の交換留学生向けインターンシップの授業を開講した。2012 年度春学期は、新しい授業の開講に向けて、グローバル社会における産官学連携の新しい方策を模索していくためのパイロット・スタディを行った。「派遣型」から「学生主導型」へと新しくパラダイム転換を図った「グローバル化支援インターンシップ」では、大学の国際教育と地域

社会の相互支援を目指し、様々なプロジェクトに取り組んでいる。

「グローバル化支援研究プロジェクト」では、地域企業のグローバル化戦略支援のためのマーケティングリサーチを行い企業で発表を行った。「グローバル化支援研究プロジェクト」では、留学生の視点を生かして東広島を世界に広報する動画を作成したり、呉市市役所産業部観光振興課・江田島市の協力を得て、HUSA プログラム留学生のための「国際交流歴史ツアー」を企画するなど、地域との連携を強化している。2013 年 4 月には「江田島国際交流歴史ツアー」を企画した。2014 年 4 月の「倉橋・江田島国際交流歴史ツアー」企画では、倉橋町と江田島市のツアーガイドブックを英語と日本語でインターンが作成し、地域の人々に配布する準備を進めるなど、留学生の知見を生かした企画が進行中である。ツアーでは呉市立倉橋中学校における生徒・保護者との大規模な国際交流会も企画している。また、江田島市の外国人民泊を外国人の視点を生かして支援するための「異文化理解講座」をインターンが担当するなど、留学生の持つ国際的知見を生かし、留学生インターンの学術知と日本社会の理論的理解を地域社会の実践の場で生かすプロジェクトの取り組みを進めている。

◆ **自国と日本に関する比較研究**

2013-2014 年度より、プログラム参加留学生は、各自が研究テーマを自由に選択し、自国と日本との比較研究を行うこととした。来日前にテーマについて自国に関する調査を行い来日時のレポートを提出し、来日後は日本に関する調査を進めた。第 1 回の中間研究発表会では、グループで自国での調査について主に英語で発表し合い、グループでまとめて全体会で報告する形式をとった。第 2 回の中間研究発表会では、日本についての比較調査の中間報告を行った。最終研究発表会を 7 月に予定している。

◆ **文化交流支援活動**

9 月に来日した際に行う HUSA プログラム・オリエンテーションは 2006 年度より 2 日間に亘って行っており、本学で勉学するにあたっての心構えや事務手続きなど全般に渡る指導を行っている。異文化適応についての指導や、HUSA プログラム参加留学生間の交流及び広島大学学生との交流並びに先輩からのアドバイスも盛り込み、学生間の交流を促進し、本学での生活に早く慣れるよう企画した。

国際センターで運営する国際交流ボランティア制度を利用し、日本人学生の会話パートナーを短期交換留学生に紹介する会合を開き、交流を促進した。また、日本人チューターを、国際交流ボランティア、広島大学電子掲示板を通して募集し、国際交流に関心の高い学生をチューターとして採用した。

◆ **地域貢献**

2003 年度より、東広島商工会議所より、国際理解のための留学生の母国についての講話を依頼されている。2003 年度はフランス・韓国、2004 年度はアメリカ・カナダ・ギリシャ、2005 年度にはドイツ、2006 年度にはタイからの HUSA 留学生が商工会議所を訪問し、母国の文化・習慣や日本との相違について話した。担当教員も、2011 年度に東広島商工会議所文化交流委員会において、「広島大学の国際化と産学連携 : 短期交換留学生インターンシップ」と題して講話を行った。また、HUSA 留学生が、地域の小学校・中学校・高校を訪れ、国際交流を行ってきた。

◆ HUSA 広報活動

HUSA ホームページにはプログラムの概要、申請方法、スタッフ紹介、HUSA に関するニュース、開講コース案内、インターンシップと産学連携、奨学金・寮・大学施設についての情報、国際交流行事案内、HUSA パンフレット、広島大学及び地域についての情報など、留学に関わる情報が網羅されている。サイトを常に更新し、HUSA プログラムについての最新情報を提供している。また担当教員の研究ホームページにおいて HUSA プログラムに関する授業及び研究を詳細に紹介している。また HUSA フェースブック立ち上げに向け、現在準備を進めている。

◆ HUSA プログラム評価

プログラム改善に役立てるため、毎学期、HUSA プログラム全体評価、各コース評価、学生チューター評価を行っている。学生にアンケート用紙を配布し、回収し、結果をまとめ、プログラム改善に役立てている。アンケート調査結果は短期留学交流プログラム部会において報告し改善のための示唆を得ている。

IV. 2012-2013 年度 HUSA プログラム派遣留学に関する活動

本学からの留学生派遣事業に関しては、本年度も 2013 年 1 月初旬に応募者の選考試験を行い、中旬には短期留学交流プログラム部会で選考を行った。2-3 月には、協定大学への申請手続きを行い、5 月から 10 月に派遣した。オセアニアへは、2014 年の 1-2 月に派遣した。以下は、派遣学生の募集と選考に関しての概要である。

１．制度の趣旨：

広島大学短期交換留学(派遣)プログラムは、本学の学部生・大学院生が在籍しつつ、学生交流協定に基づいて、海外の協定大学へ 1 学期または概ね 1 年間留学し、専門教育または外国語教育等を受けて単位を取得するものである。本学で単位互換することにより、海外に留学しても通常の修学年限内に卒業できることを目指した制度である。本プログラムは、1996 年後期から開始され、現在アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーラン

ド、インドネシア、シンガポール、タイ、フィリピン、マレーシア、韓国、中国、トルコ、ポーランド、ロシア、オーストリア、ニュージーランド、イギリス、オランダ、スウェーデン、ドイツ、フィンランド、フランス等の 67 大学からの交換学生を受入れ、同時にそれらの大学へ、本学に在籍する学生を派遣している。また、海外の高等教育機関によって運営されている USAC や UMAP 等のコンソーシアム型の学生交流に参加することで、本学からの派遣国並びに派遣対象大学は拡大し、過去においても本学が独自に協定を持たないガーナ、メキシコ、コスタリカ、イタリア、フランス、スペイン等へも派遣している。

２．特徴：

- **授業料不徴収**： 本プログラムで留学する学生は、協定大学では授業料を支払う必要がない。
- **奨学金**：日本学生支援機構による留学生交流支援制度、並びに佐藤陽国際奨学財団海外派遣奨学制度等の奨学金が一部派遣学生に支給されている。
- **単位互換制度**： 全協定大学の単位制度に対し、UMAPのUCTSを活用することにより、公平、且つ正確な単位互換を行っている。また、UMAP学習計画書を実施することにより、派遣学生・指導教員・協定大学が、学生の履修計画並びに単位互換に関し、事前に相互に承諾を得ることができ、交換留学の実質的な活動を円滑に進めることができる。
- **現地コーディネーターのアシスタント**：協定大学の国際室並びに関係部局における本学との交流事業をコーディネートする事務職員と連携し、派遣学生の留学生活を支援している。
- **短期交換留学生との留学前の交流及び留学後の現地での交流**：留学前に留学先から本学に留学している学生と交流会を持つことにより、現地での生活の状況、授業やクラブ活動等の学生生活に関する最新の情報等を得ることができる。また、留学後は、帰国した留学生と現地での交友関係を構築しやすい。

３．出願書類

①派遣申請書

②留学計画書

③外国語検定試験の成績表

(英語・中国語・ドイツ語・フランス語の検定試験については、それぞれの検定試験に一定の基準を設け評価している)

④学業成績証明書

４．出願書類提出先及び締切り

各学部等派遣留学担当係へ例年 11 月末までに提出する。

５．面接（口述）試験

(ア) 学生から提出された申請書類の留学計画を基に例年 1 月の第 1 週に面接試験を行っている。試験は、広島大学短期留学交流プログラム部会の委員による 1 グループ 3 名程度の審査員によって実施される。審査員が学生の留学計画、異文化適応能力等についてそれぞれ 5 段階評価をつけ、その平均点を最終審査会の 1 つの評価指標としている。

６．選考委員会の実施

(イ) 例年 1 月下旬に、広島大学短期留学交流プログラム部会において、派遣留学生の選考を実施している。主に学生の留学志望校、語学能力、面接試験結果、学業成績を考慮し、可能な限り多くの学生を推薦できるよう配慮し選考及び推薦を行っている。

V. 2013-2014 年度 HUSA 留学生派遣事業の実績

2013 年度の短期交換留学生派遣に関しては、38 名を推薦し、アメリカ、カナダ、イギリス、オーストリア、ドイツ、フランス、フィンランド、ニュージーランド、韓国、台湾、マレーシア、タイの 22 大学と 1 コンソーシアム・プログラムへ派遣した。1 カ国に複数の協定校がある場合、アメリカでは 6 大学、イギリス 2 校、ドイツ 3 校、フランス 2 校、韓国２大学へ派遣している。派遣国は、欧米だけでなく、アジア諸国への派遣も拡大しているが、依然として、全協定大学との交流バランスを見ると、毎年、受入れ超過傾向にあり、今後もアジアだけでなく、欧州諸国への派遣留学も促進する必要がある。また、本学では、協定大学が開講する超短期（1 学期未満）プログラムへの留学も選考、派遣しており、2013 年度は、4 大学（台湾、韓国 2 校、ロシア）へ合計 6 名を派遣した。派遣規模は、年々拡大しており、通常の 1 学期または 1 年間の派遣では、受入れ超過傾向の協定大学に派遣できるので、今後も継続してこうした取り組みを拡大していく計画である。

VI. HUSA 留学生派遣事業の活動状況

広報活動：25 年度は、毎年 5-6 月に実施する留学フェア並びに説明会、そして担当教職員による交換留学に関するメールや面談による相談に加え、多くの一般学生が集うラウンジに留学情報コーナー及び学生アシスタントによる留学相談デスクを設置した。その結果、協定大学の紹介や留学までの段階的な留学準備の仕方について興味のある学生は、いつで

も情報収集し、留学相談できるようになった。

留学前の情報提供と留学計画の促進：例年、派遣が決定した本学の学生に対し２度（4 月と７月）に渡るオリエンテーションを実施しており、留学に関する一般的な情報と共に、協定校から来ている留学生との交流の場を提供している。その学生間の交流は留学後も続き、協定校においても継続的な交流活動が行われている。また、留学前に指導教員及び学部と単位互換について確認する目的で、UMAP 学習計画書を６月の第２回目のオリエンテーションで配布し、留学前までに提出するよう要求している。

INU 特別協力講義：25 年度も、派遣留学を促進するため、すでに 2006 年より開講してきた INU 特別協力講義並びに集中講義を実施した。一般の教養科目として開講されている INU 特別協力講義は、INU ネットワークを利用し、アメリカとオーストラリアの協定大学の教員によるビデオ講義を活用した WebCT 上で授業を展開するオンライン教育科目である。教育交流部門の教員がそのうちの１科目（特別講義と集中講義合わせて１セットの講義）を担当し、「アメリカの文化と社会」と題し、アメリカ人講師のビデオ講義を基に授業を行った。

VII. その他の主な活動

本学は、学外での活動としてアジア太平洋諸国の政府並びに高等教育機関によって運営されているUMAP（アジア太平洋学生交流機構）の学生交流促進事業に積極的に参加してきた。

2013年5月には、UMAPがこれまで活用してきたUCTS（UMAP単位互換制度）について、新たな概念の導入を提案し、国際理事会にて、承認された。

新たな概念とは、以下の通りである。

１UCTS＝38～48 学修時間数とする。また、その学修時間数には、13～16 時間の授業時間数(academic hour)が含まれる。

その新たな概念を導入することによりUMAP参加大学の多くの間では、1単位の価値は等価と見なすことができ、単位互換が簡素化され、学生交流の促進が期待できる。また、アジア共通の単位互換性度を構築した場合、欧米諸国との単位互換も簡素化され、アジアと他地域の学生交流促進にも貢献することができる。ただし、新たな概念は科目間の内容の互換性を保証する手法が含まれていないので、今後、さらなる開発が必要である。現在、

同様の単位互換の概念は、アセアン諸国等の他の学生交流事業においても、導入が検討されている。

海外からの表敬訪問・海外及び国内の大学訪問及び会議への参加等

2013 年

5月　＊ UMAP国際理事会（東京）に出席　（堀田）

6月　＊ Global Internship Conference: North, South, East & West Internship at a Crossroad (シンガポール)参加・研究発表（恒松）

7月　＊ 東洋大学にて、UMAP並びにアジアの単位互換制度について発表（堀田）

＊ UMAPの新たなUCTS（単位互換制度）の概念導入に関する全国説明会にて講演（大阪・東京会場）（堀田）

10月　＊ UMAP 国際理事会議（台北）出席

＊ UMAP ワークショップ（台北）講演

11月　＊ 広島大学付属高校スーパーサイエンス・ハイスクール「科学英語表現」英語合宿講師（恒松）

12月　＊ UMAP国内委員会に出席（堀田）

2014年

2月　＊ UMAP国内委員会に出席　（堀田）

＊ 北海道大学来校

＊ 広島大学STARTプログラム引率（アメリカ・James Madison University）（堀田）

3月　＊ UMAP国内委員会に出席（堀田）

研究・その他の活動

１．研究論文・著書

田村泰男　「和語系接頭辞と漢語系接頭辞」『広島大学国際センター紀要』第4号, 2014年, pp.17-28

恒松直美　「交換留学生向け『グローバル化支援インターンシップ』実習 ―『国際交流歴史ツアー』コーディネーター育成 ―」『広島大学国際センター紀要』第 4 号, 2014 年，pp.1-15

恒松直美　「交換留学生『地域国際観光プランナー』インターンシップ ― 新しい地域づくりと地域活性化への留学生の支援 ― 」『広島大学留学生教育』第 18 号，2014 年，pp. 57-71

恒松直美　「日本社会における『交換留学生主導型インターンシップ授業』の構築」『総合学術学会誌』第 12 号，2013 年，pp.3-10（特別寄稿論文）

中川正弘　「Roland Barthes : *Le Degré zéro de l'écriture* ― 日本語翻訳と記号の戯れ ―」『広島大学フランス文学研究』, 第 32 号，2013 年，pp. 53-73（広島大学図書館リポジトリ登録版には補遺 13 頁付）

中川正弘　「『は／が』と助詞選択の位相 ―『文内主題』による『語り』と時間性 ―」『広島大学留学生教育』第 18 号，2014 年，pp. 1-13

中矢礼美　「インドネシア・アンボンの成り立ちと教育(2) 地域教育史から読み解く地域の課題」中国四国教育学会編『教育学研究紀要』第 59 巻，2013 年，pp. 355-360

２．学会発表

恒松直美　「交換留学生主導型『グローバル化支援インターンシップ』授業の開発 ― 大学の国際教育と地域社会の相互支援 ―」, 日本高等教育学会 第 16 回大会, 広島大学，2013 年 5 月 25 日

Tsunematsu, Naomi, “Globalization Support Internship for International Exchange Students in a Japanese University”, Global Internship Conference: Clarity, Innovation, Collaboration (Singapore) (June 12, 2013)

Tsunematsu, Naomi, ‘Globalization Support Internship for Exchange Students in a Japanese

University: Japanization of Foreign Interns or Globalization of the Local Society”, 日本比較教育学会 第49回大会, 上智大学, 2013年7月6日

中矢礼美 「インドネシア・アンボンにおける『まち』と教育の変遷」日本比較教育学会第48 回ラウンドテーブル『マレー世界の比較教育 ― 地域研究を町から考える―』(九州大学), 2013年7月5日

中矢礼美 「インドネシア・アンボンの成り立ちと教育 ― 地域教育史から読み解く『地域の課題』－」中国四国教育学会大会(高地大学), 2013年11月3日

深見兼孝 「『起きる』と『起こる』－ 問題提起」2013年度日本総合学術学会春季大会, 広島大学(東千田キャンパス), 2013年6月29日

深見兼孝 「日本語と朝鮮語のタツ/seta とスワル/ancta：原文と翻訳の間の形の対応から」西日本言語学会第43回講演・研究発表会, 島根県立大学, 2013年9月7日

深見兼孝 「形式と翻訳の様相：スワルと앉다の場合」, 韓日言語学会・日本総合学術学会2013年度共同学術発表会, 釜山大学校(韓国), 2013年10月19日

３．学術研究補助金

深見兼孝 研究分担者(平成23-25年度)科学研究補助金, 基盤研究(C)「説話の超域文化性に関する基礎的研究」研究課題番号：23520434（研究代表者：佐藤利行）

４．その他の活動

A. 地域貢献、社会貢献

恒松直美 広島大学高等教育開発センター 学内併任研究員

恒松直美 広島大学「グローバルインターンシッププログラム」(G.ecbo) 運営委員

恒松直美 広島大学附属高等学校スーパーサイエンス・ハイスクール運営指導委員

中矢礼美 The ASIA-PACIFIC EDUCATION RESEARCHER (De La Salle University) 編集委員

中矢礼美 JICA研修コースリーダー
研修コース名：平和のための教育 ― 相互理解の促進をとおして-
研修期間：平成25年6月3日～平成25 年6月28日

B. 学会活動

恒松直美　日本総合学術学会　監事

恒松直美　日本比較教育学会　常任幹事

中川正弘　日本フランス文学フランス語学会　中国・四国支部実行委員

中川正弘　広島大学フランス文学研究会　参与

中矢礼美　日本比較教育学会　常任幹事

中矢礼美　留学生教育学会編『留学生教育』　論文査読

中矢礼美　中国四国教育学会編『教育研究ジャーナル』　論文査読

深見兼孝　西日本言語学会　運営委員

深見兼孝　日本総合学術学会　理事

深見兼孝　韓国学研究会　会長

C. 講演・ワークショップ等

恒松直美　「PBLシナリオ作成ワークショップ」における「PBL実践事例紹介」―「交換留学生向け『グローバル化支援インターンシップ』授業におけるPBL協同学習」，広島大学人材育成推進室（FD部会），2014年3月27日

恒松直美　広島大学附属高校スーパーサイエンス・ハイスクール「科学表現」英語合宿におけるディベート指導，2013 年 11 月 23 日